

平成27年度文部科学省「学びによる地域力活性化プログラム普及・啓発事業」
学びを通じた地方創生コンファレンス

第1回大会

関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会

報 告 書



開催日 平成27年11月7日（土）～8日（日）
会 場 茨城大学 水戸キャンパス（茨城県水戸市文京2-1-1）
主 催 茨城県教育委員会，茨城大学社会連携センター，茨城県生涯学習・社会教育研究会
主 管 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会実行委員会
後 援 福島県教育委員会，栃木県教育委員会，群馬県教育委員会，埼玉県教育委員会，千葉県教育委員会，神奈川県教育委員会，国立青少年教育振興機構，茨城県社会教育委員連絡協議会，茨城県公民館連絡協議会
協 力 国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター

目 次

1 はじめに	1
2 大会テーマ及び日程	2
3 事業の実施体制	3
4 大会参加者集約結果	4
5 アンケート集計結果	6
6 事例発表協議メモ集約結果	36
7 メッセージボード集約結果	45
8 追跡調査集約結果	51
9 成果と課題	55

< 参 考 >

・ 学びによる地域力活性化プログラム普及・啓発事業	56
・ 第1回大会チラシ	58
・ 茨城新聞記事	60
・ 事例発表者一覧	61
・ 実行委員会委員等一覧	63

1 はじめに

今年、戦後70年目を迎えました。敗戦後の荒廃した国土と地域の復興は、例えば、地域における青年団、婦人会、さらにPTAなど各種社会教育関係団体の活動、子ども会活動、家庭教育学級の活動、地域図書館づくりや子どもたちをよい本に触れさせる活動、地域公民館活動、青少年教育施設の活動、さらに市町村社会教育主事をはじめとする各種社会教育関係専門職員の活動等々、そして各種の社会教育関連施設や多くの社会教育関係者等の努力によって推進されてきました。端的に言えば、それは学校教育と社会教育という二本柱のうち、特に社会教育の分野での学びの力が生み出した大きな貢献でありました。地域住民は、地域における様々の社会教育活動に参加することによって、地域の絆をつくり、維持し、育ててきたと言えます。



しかし、我が国を襲ったこの数十年間の大きな、かつ急激な社会変動、例えば人口の少子高齢化が進む中で、気がつく私たちの周囲には、限界集落を抱え消滅の情報に不安が増す過疎の町や村、地域における高齢者介護の問題、経済のグローバル化と過疎化の中で担い手を失った地域産業の問題、社会の急激な情報社会化・IT化の進行がもたらした影の部分への対応の問題等々が山積し、何よりも、私たちの地域社会がしだいに人間同士の信頼感や社会的な絆を失い、お互いが孤立化を深めてきているのではないかと危機感が強まってきております。子どもたちが明るく元気に育ち、若者がみんなに期待され頼られながら将来の地域の担い手に育ち、お年寄りもまたそこで元気に地域や家族の一員としての役割を果たす、そこには相互の信頼と伝え合い、支え合いがあり、社会的な絆があるという心豊かな地域を見出すことは、今やほとんど難しくなっているのではないかとさえ思ってしまうます。

そのようななか、実は日本の地域がどこもそうかと言うと決してそうではないという声はかなり聞かれるようになってきています。悲観してばかりいたのは5、6年前までの話で、今や日本のあちらこちらで、そうした地域の現状に対する強い危機感をもとに、地域を元気にする活動が現れてきているというのであります。そう思ってこの関東とその周辺を見回すと、確かに、学びを通して地域を元気にする活動があちらこちらで実績をあげてきているのです。それをみんながワイワイ、ガヤガヤと元気にやっているではありませんか。そう気がついてむしろ今思うことは、大事なことは、まず、そうした実践を発表して頂き、みんなで学び合い、交流し合って、地域活性化への飛躍のきっかけにすることではないか。これが今回この交流会を企画し開催した趣旨であります。実は、中国・四国と九州ではこうした実践交流会は毎年開催されており、そこに参加して多くの情報を得るとともに刺激を受けた方々が地域に戻って、新たな地域活性化の試みを始め、またみんなが一堂に会して交流するという循環ができあがっております。ぜひこれを機会に関東においても、このような交流会を続けることによって、学びを通じた地域力活性化の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、本交流会開催にあたり御協力いただきました多くの団体や関係者の方々に心から御礼申し上げてご挨拶とさせていただきます。

関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会実行委員会

実行委員長 菊池 龍三郎（茨城大学名誉教授）

2 大会テーマ及び日程

第1回大会テーマ

『県域を越えて「学びによる地域づくり」の輪を広げよう!』

「学びを通しての地域活性化」の面で成果をあげている各県の実践を発表し、話し合いを通して経験・知識・技術を学び合う「関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会」を開催し、関東圏域での地域づくりに関わる実践研究交流の場づくりの拠点となるとともに、支援スキルの習得や対話・交流を通して地域課題解決の糸口となることをめざします。

大会日程

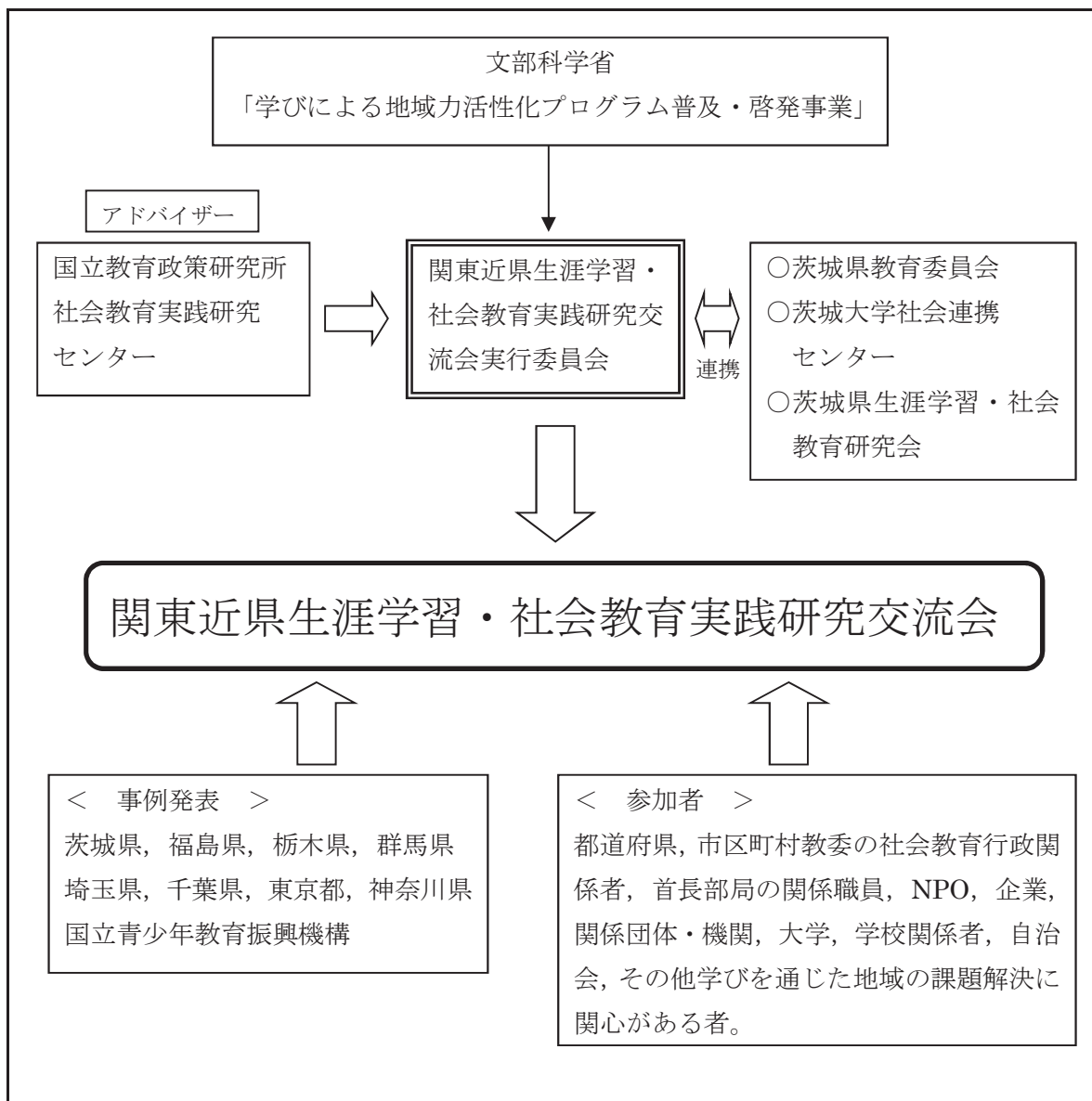
第1日目 11月7日(土)

12:30	13:00	13:30	14:00	14:45	14:55	15:40	15:50	16:35	16:45	17:30	18:00	20:00
受付	開会式	移動・休憩	事例発表 ①	移動・休憩	事例発表 ②	移動・休憩	事例発表 ③	移動・休憩	事例発表 ④	移動・休憩	交流会	
教育学部 B棟	D棟 201		203 ～ 208		203 ～ 208		203 ～ 208		203 ～ 208		生協食堂	

第2日目 11月8日(日)

8:30	9:00	10:00	10:10	10:45	11:00	12:30	13:00
受付	支援スキル・ノウハウに ついての研修	移動・休憩	(関係者間での 出会いと対話) 全体会	移動・休憩	特別講演 『社会教育不要論への挑戦 ～学習から教育への再修正こそ立国の条件～』 月刊生涯学習通信「風の便り」発行人／編集長 三浦清一郎 先生	閉会式	
共通 教育棟 2号館	初級:12 中級:11		10 番 教室		共通教育棟2号館 10 番教室	共通 教育棟 2号館 10 番 教室	

3 事業の実施体制



4 第1回大会 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会参加者集約結果

都県	第1日目	第2日目	合計
福島県	13	11	24
茨城県	235	130	365
栃木県	18	4	22
群馬県	6	6	12
埼玉県	11	2	13
千葉県	15	8	23
東京都	10	3	13
神奈川県	4	2	6
青森県	1	1	2
福岡	1	1	2
合計	314	168	482

※ うち運営事務局関係 107 名

コンファレンス開催実績シート

1. コンファレンス参加者について

	合計(人)	男性(人)	女性(人)
属性別参加者数	482	345	137
(内訳)			
社会教育関係者 (地域コーディネーター, 社会教育委員等)	37	27	10
公民館等社会教育施設関係者	65	50	15
学校教育関係者 (大学等関係者を除く)	39	29	10
大学等関係者	101	46	55
NPO／団体関係者 (商工会等含む)	52	33	19
行政関係者 (教育委員会)	62	52	10
行政関係者 (首長部局)	4	4	0
その他一般参加者	15	7	8
運営事務局関係者	107	97	10

	合計(人)	男性(人)	女性(人)
年代別参加者数	482	345	137
(内訳)			
高校生以下	0	0	0
大学生	90	35	55
20～60歳	315	250	65
60歳以上	77	60	17

2. コンファレンスで取り上げた事例数

	件数
コンファレンスで取り上げた事例数	20
(うち, 公民館GPの事例)	

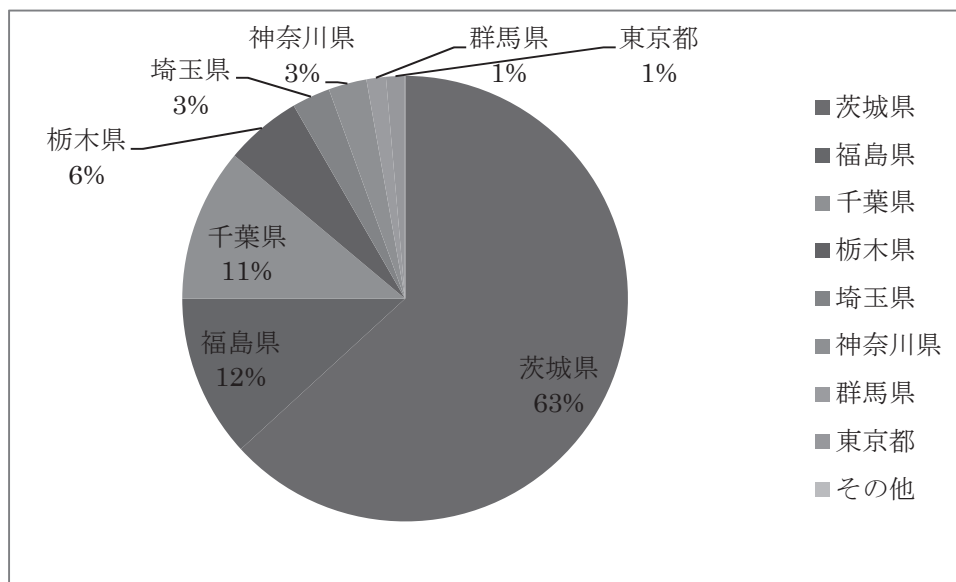
3. コンファレンス開催時間数

	時間
開催時間数	11
(うち, 参加者同士が対話した時間数【概算】)	4.25

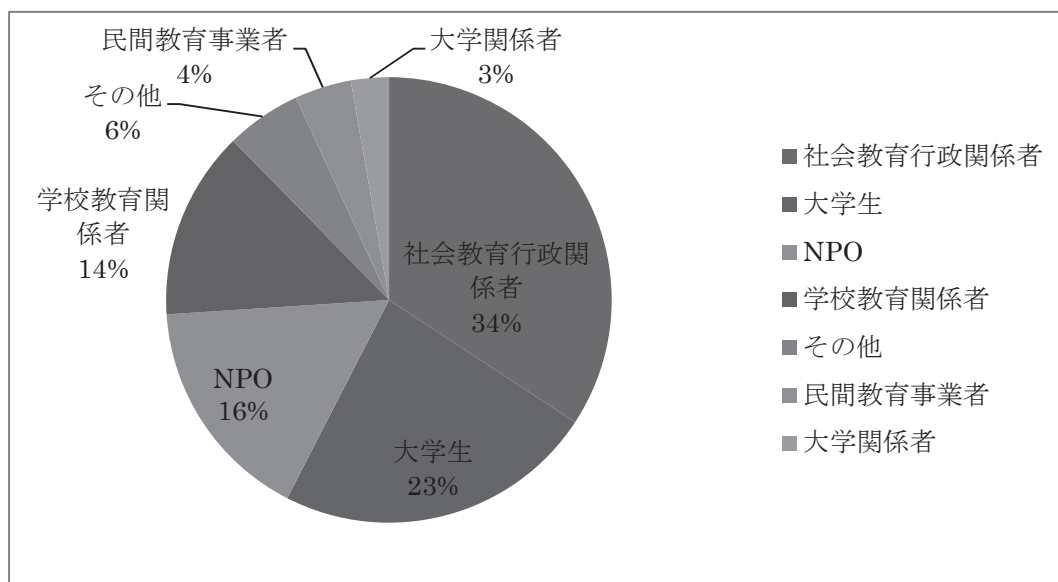
5 第1回大会 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会アンケート集計結果

アンケート回収数75名

1 どちらから参加されましたか。



2 所属を教えてください。



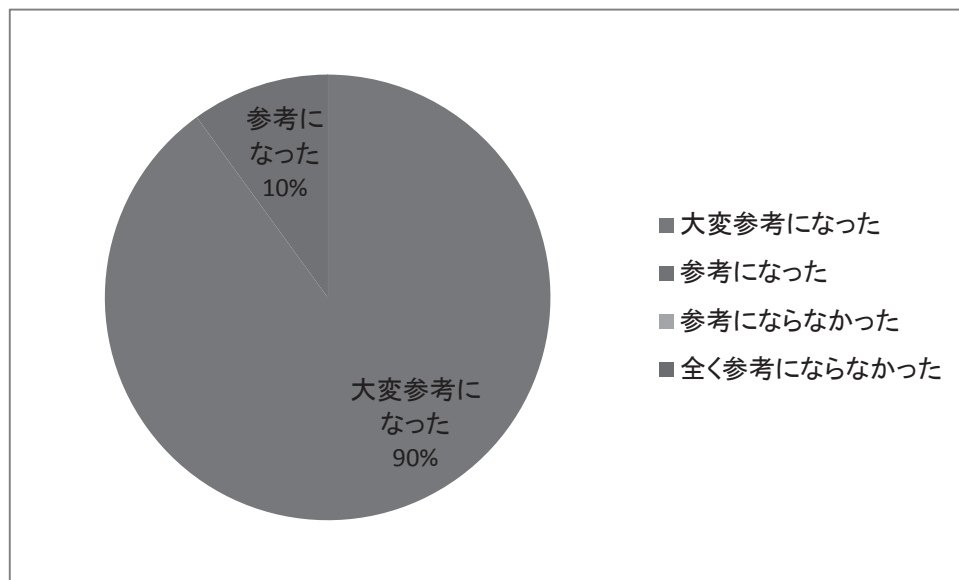
3 事例発表

①14:00～14:45

A 学校・家庭・地域の連携

「野友の山猿化計画（小規模校だって負けないぞ!）」

～地域と共に歩む学校づくりを目指して～



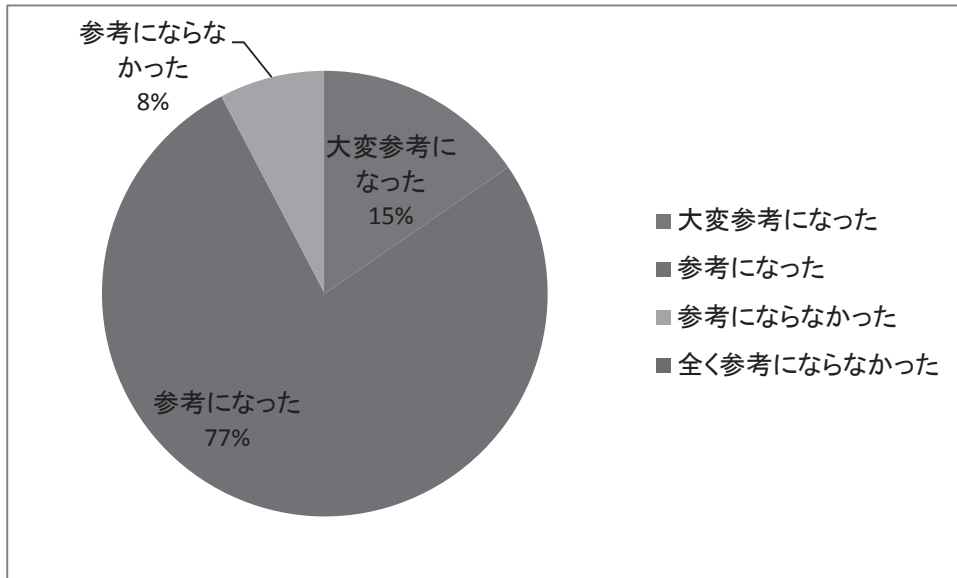
- ・小規模校の課題を強みに変えるような活動につなげていけるといい。
- ・小規模小学校のことがよくわかった。
- ・今後の実践について参考になる内容だった。
- ・どの地域でも抱えている問題で非常に身近な課題が取り上げられていてよかった。
- ・地域とのつながり方が参考になった。
- ・元気あふれる子どもの環境をよくするための取り組みが参考になりました。
- ・パワーポイントが読みやすかったです。
- ・パワーポイントと発表が見やすかった。小規模でもこんなユニークにしてるのはすごいと思う。
- ・小規模校での取り組みで、子供たちを生き生きとさせる魅力を感じた。
- ・学校ができるリミットを決めつけず、できることはたくさんあり、地域、家庭との協力があれば可能性が広がると思いました。
- ・地域の活性化を含め、交流が多くできていて良いと思う。
- ・地域の人と連絡がスムーズにとれないのはトラブルにつながるので、至急解決すべきと思う。



B 指導者養成・研修

「公民館・市民センター等における学習プログラム開発について」

～生涯学習調査・学習プログラム開発事業～

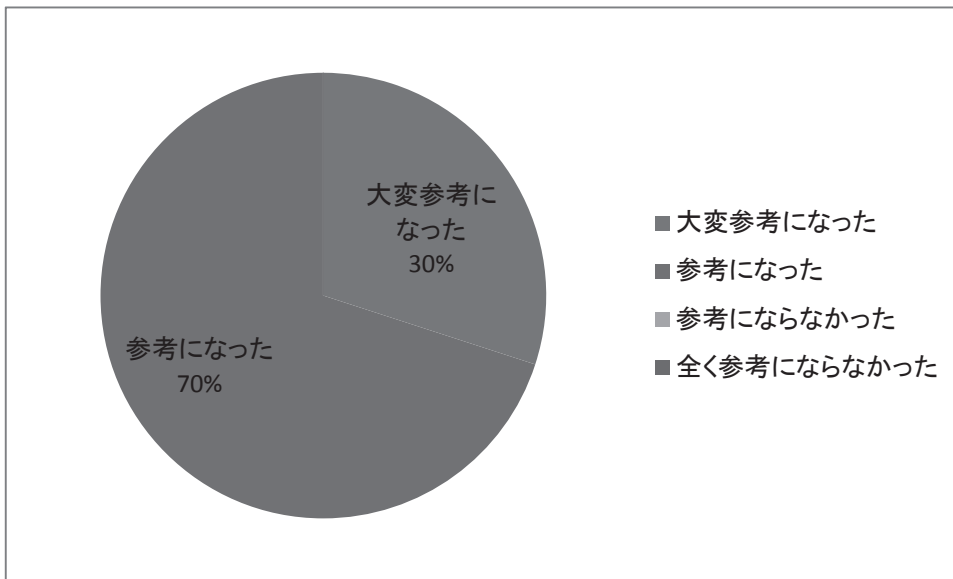


- ・他市町村等の発表は、大変よかった。
- ・時間的には、無理があったが、全体を通して、それぞれの持つ意味がわかったように思った。
- ・学習プログラム開発のプロセスをもう少し伺いたかった。
- ・時間が短く、プログラムを实际行ってみてどうだったか等の実態が見えてこなかった。
- ・生涯学習調査、学習プログラム開発事業の効果的な活用に向けての取り組みは参考にしていきたい。
- ・内容をもっとしぼりこんで聞きたかった。モデルプログラムについて聞きたかった。
- ・プレゼンテーションとしては、少々改善の余地有りだが、取り組みは興味深い。



C 地域課題の解決に向けた取り組み

「街がないなら作ればよい！ 新しい挑戦が人を変える！」



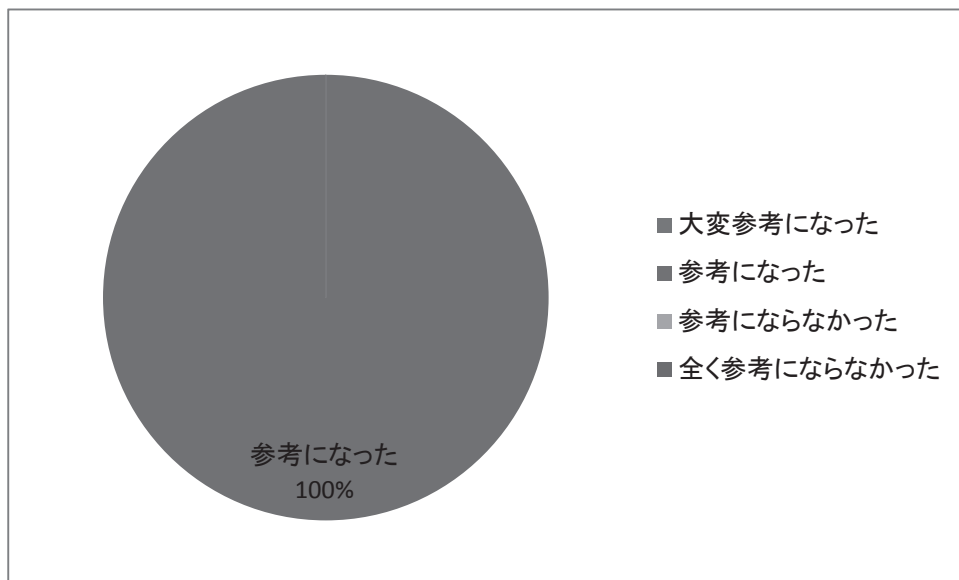
- ・行政の力を借りず、インターネットをフルに活用して事業を行われているのはすばらしい。これからはネットの時代だと強く感じました。
- ・内容的には興味があったが、説明時間が短く、実施内容が把握しきれず、課題解決のための具体的策までできなかった。
- ・時間的には、無理があったが、全体を通して、それぞれの持つ意味がわかったように思った。
- ・情熱，行動力はすばらしい。行政に頼るより，上手に利用すれば良い。
- ・まちづくりや地域活性化について，ヒントとなる話が聞けて良かった。
- ・20分ではカミスガのやっている内容がよくわからなかった。思いの強さはすばらしい！
- ・ローカルな話題だが，おもしろいと思う。
- ・一度聞きたかったもので，今回とても良い機会になりました。



D ボランティア関係

「生涯の学びにつながる学生の社会参画活動」

～ユニバーサルビーチでの活動報告（大洗サンビーチでの体験から学んだこと）～



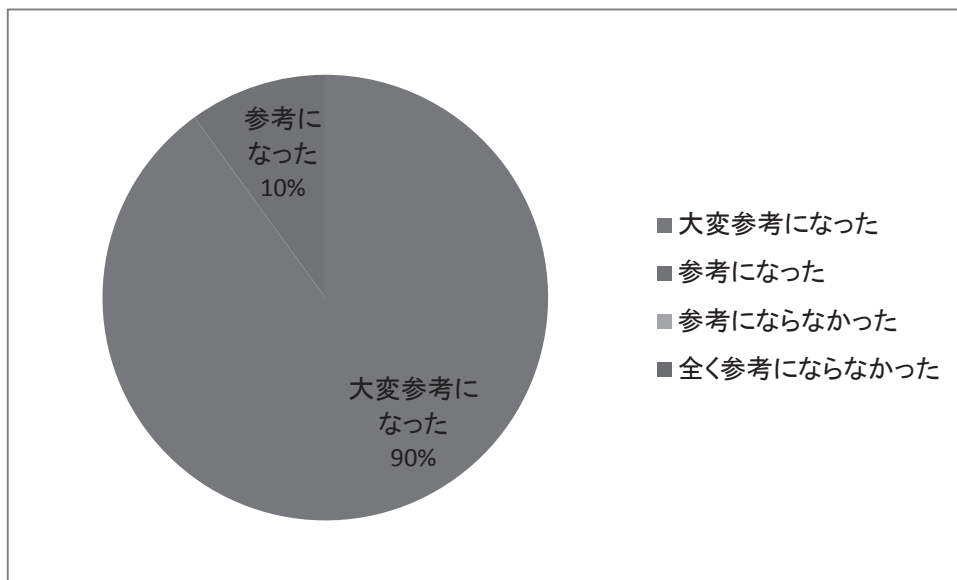
- ・とても良かった。
- ・ライフセーバーの仕事は海以外のところでも行われていることがわかった。
- ・車いすの人に対する海でのことが考えられていることはすごいと思いました。海に入れるのはあたりまえだと思っていましたが、そうでない人がいることに気づかされました。
- ・水陸両用車いすを初めて知りました。



E 青少年教育

「感動・夢体験 in のびのび夢スクール」

～適応指導教室との連携を通して～



- ・ 青少年教育施設の様々な取り組みに触れられ大いに役に立ちました。
- ・ 大変参考になりました。
- ・ 各施設の具体的な取り組みが聞けて参考になった。自分たちの施設にも、ぜひ取り入れたいプログラムを見つけることができた。
- ・ 各機関の取り組みからヒントを得ることができた。

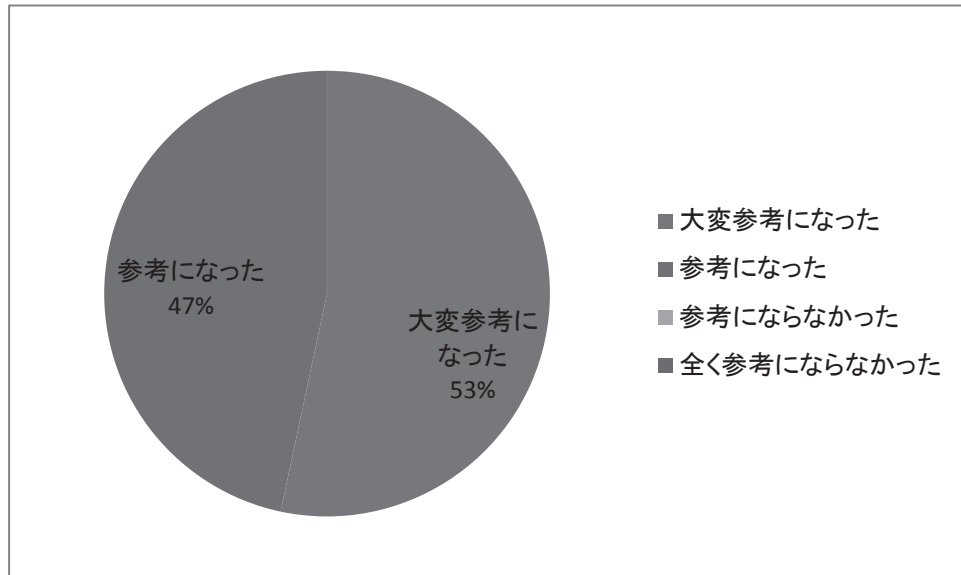


②14:55～15:40

A 学校・家庭・地域の連携

「夢に向かってチャレンジできる児童の育成」

～学校・家庭・地域パートナーシップ推進事業～

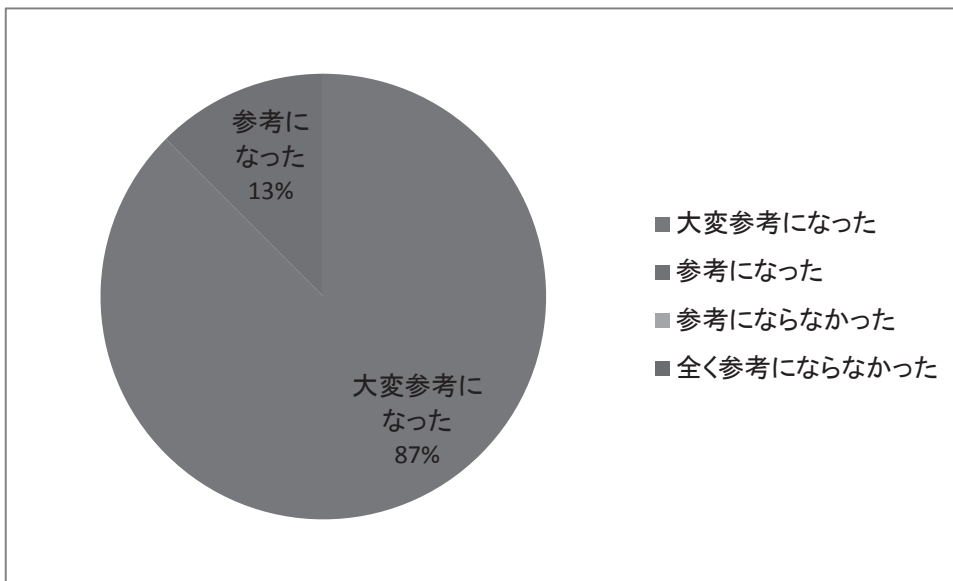


- ・おもしろい取り組みだと思った。
- ・大変参考になりました。
- ・学校の行事が多くておどろきました。
- ・学校で行う事業がとても多く、少しうらやましい。大変だと思うけれど地域の活性化につながると思う。
- ・学校長の努力、裁量で子どもたちのために地域連携が図れていることには感心します。
- ・イベントがたくさんあってうらやましいと思ったが、本当に必要なのか再度考えるべきとも思う。
- ・こんなにたくさんの学習企画があるなら、生徒だけでなく地域の人也能参加できるようにした方が良いと思う。
- ・学校の行事がよくわかった。
- ・自分が小学生のときより行事が増えていてびっくりしました。地域の人がやってくれているので、つながりができていいと思いました。



B 指導者養成・研修

「地域連携教員活動支援事業について」



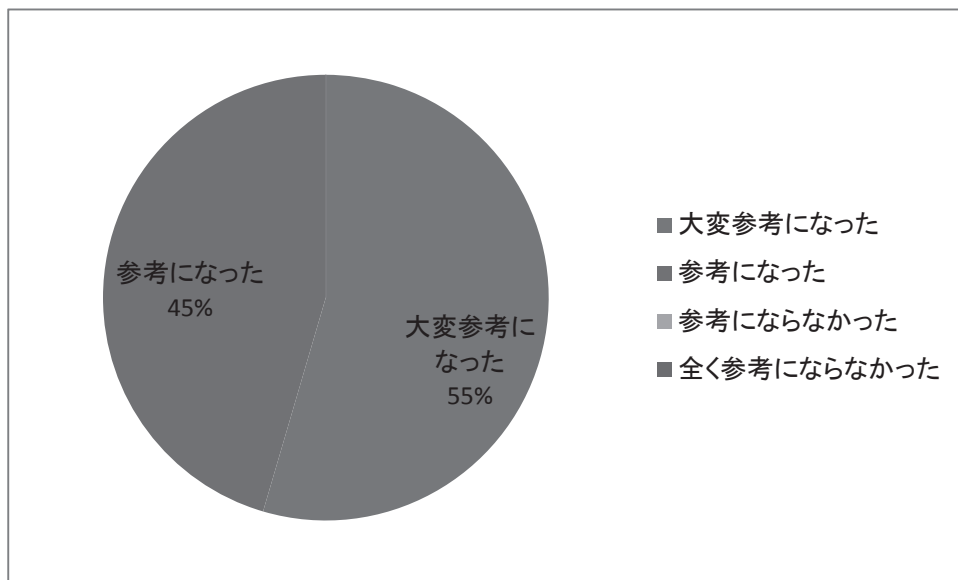
- ・栃木の先進的な取り組みがよくわかった。茨城でも取り組んでもらいたい。学校運営だけでなく，地域活性化に結びつく良い事例だと思った。
- ・他市町村等の発表は，大変よかった。
- ・「地域連携教員」についての活動や課題についてよくわかった。
- ・地域連携教員の役割について，熟知できた。
- ・熱意が大きく伝わった。
- ・現状がよくイメージできました。パワフルな話し方すばらしい！



C 地域課題の解決に向けた取り組み

「子どもを見守る地域の輪」

～子育て応援事業「親の学習」講座～



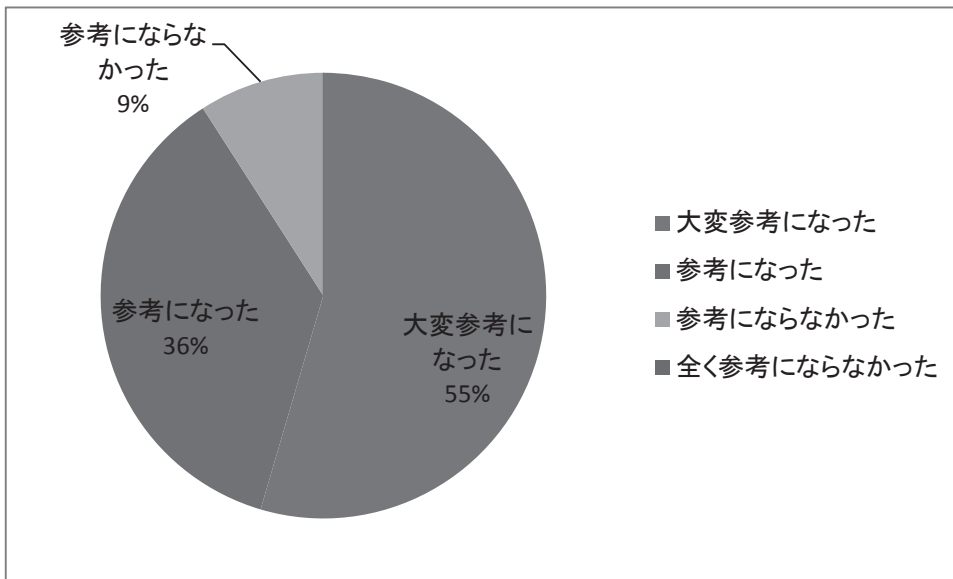
- ・時間的には、無理があったが、全体を通して、それぞれの持つ意味がわかったように思った。
- ・「子育て」への手厚いサポートを市が主体となり活動しており、素晴らしいと思った。
- ・地域のニーズをとらえた講座である。ぜひ参考にしたいと思った。
- ・わかりやすい発表でとてもよかった。継続性は講座数でOKではないか。



D ボランティア関係

「私たちにできるボランティア活動」

～ 高校生から（15 年間）の歩み～



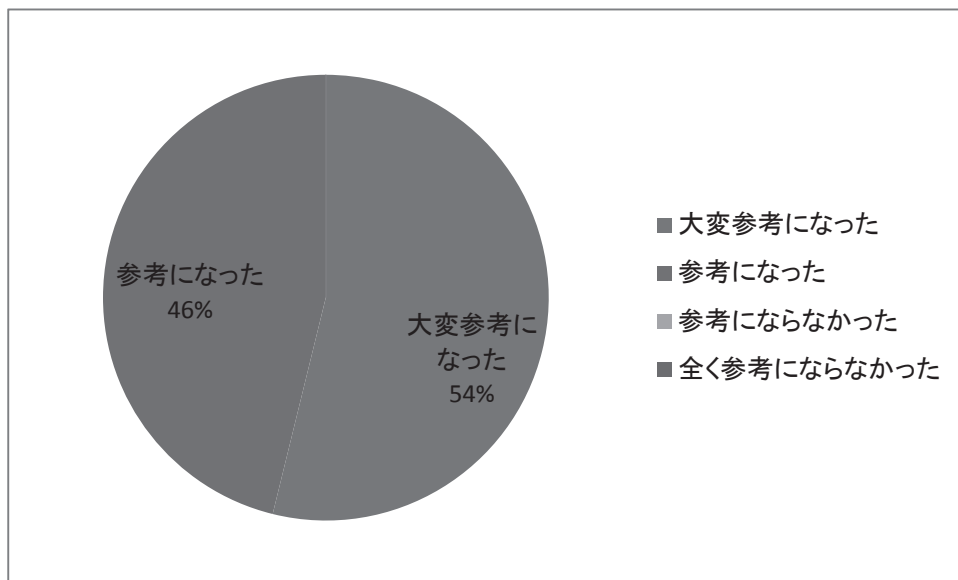
- ・ 藤田さんのボランティア活動，地域活動に子ども頃や高校生からの取り組みについて，胸にせまってくる良い内容でした。
- ・ 発表者の人柄はすばらしく，がんばってほしいと思ったが，資金面運営面など見えないところが多く参考とならなかった。
- ・ ボランティアとは何かを考えるよい機会となった。
- ・ 国の施設の役割がよくわかった。頑張ってください。
- ・ 興味深い内容だった。子育てについて問題も多いが話し合いが大切。
- ・ ボランティアの生の声が聞けてよかったです。



E 青少年教育

「国立青少年教育施設の役割

～いま、交流の家で何が起きているか～」



- ・ 青少年教育施設の様々な取り組みに触れられ大いに役に立ちました。
- ・ 各施設の具体的な取り組みが聞けて参考になった。自分たちの施設にも、ぜひ取り入れたいプログラムを見つけることができた。
- ・ 各機関の取り組みからヒントを得ることができた。
- ・ 立場の違いがとても理解できた。
- ・ 事業の取り組み内容についてよくわかった。AAPの課題に対する今後のアプローチを知りたい。
- ・ 20分での発表は、AAPの具体的なことがわからない。プログラムのひとつでもみんなでやってみたかったです。
- ・ コミュニケーション力の育成と不安解消と体験不足を解消するための施設の伝達は大変参考になりました。

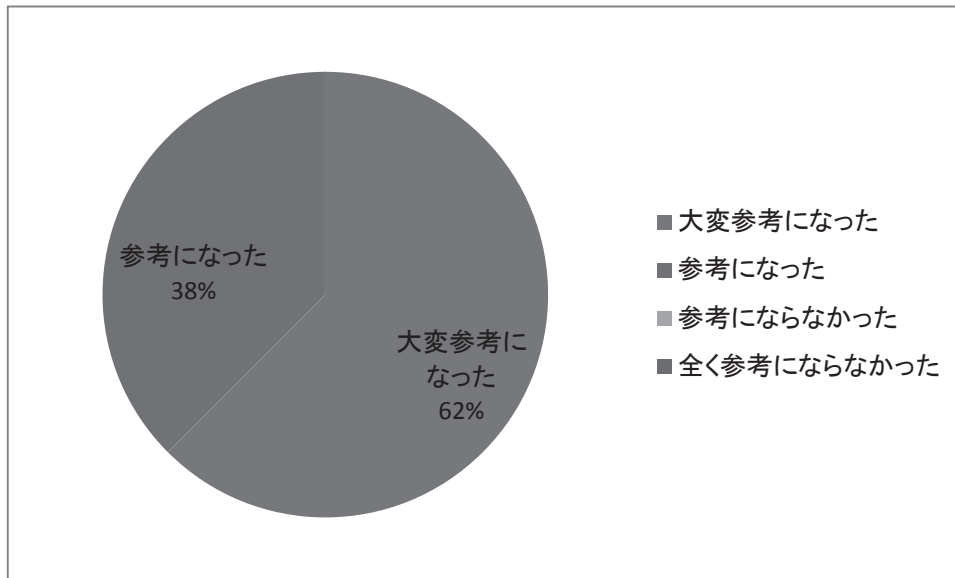


③15:50～16:35

A 学校・家庭・地域の連携

「悩みを抱える青少年に対する支援」

～G-SKY Plan 事業について～



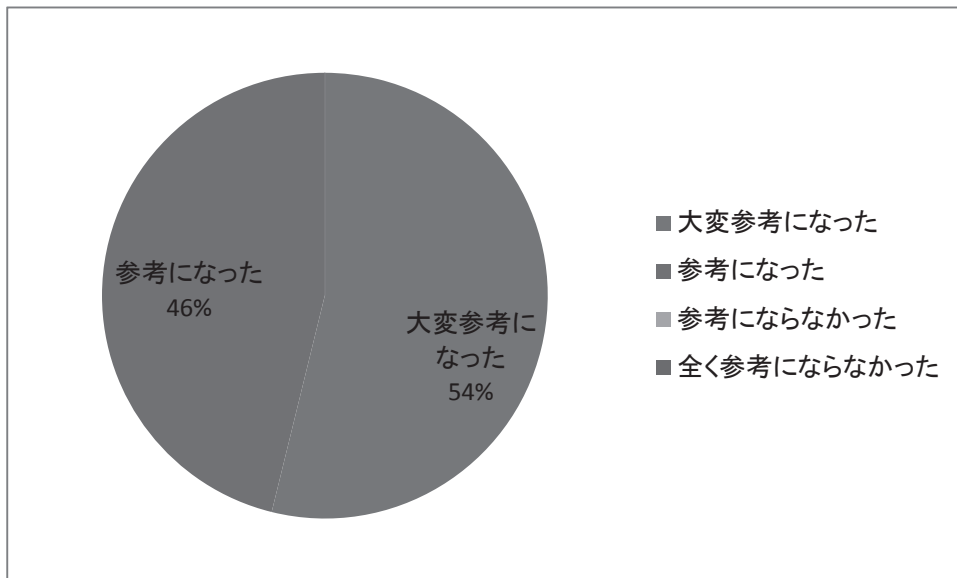
- ・情熱を持って支援にあたる様子が見え、大変刺激になりました。
- ・もうひと工夫のような気がした。
- ・これからとても大事になる事業だと思った。
- ・このような相談会があることが知れてよかったです。
- ・リアリティが高い中で、聞いていてなるほどと思った。このようなアイデアは、まわりも参考にしたらなあと思う。
- ・子どもへのサポートが充実しており、更正もできていて、本当に素晴らしいと思った。
- ・いつ誰が引きこもりになるかわからないので引きこもりでない子たちにも G-SKY の活動を教え、いざというときに相談しやすいようにしてほしい。
- ・学校に行けていない子たちが、仕事の体験を通したりして、学校に行けたりしている。何がきっかけになるかはわからないので、いろんなことをやるのが大切だと思いました。
- ・とても参考になりました。



B 指導者養成・研修

「人はなぜ、仕事帰りに学ぶのか？」

学ぶだけじゃない！ まなびいカフェ」

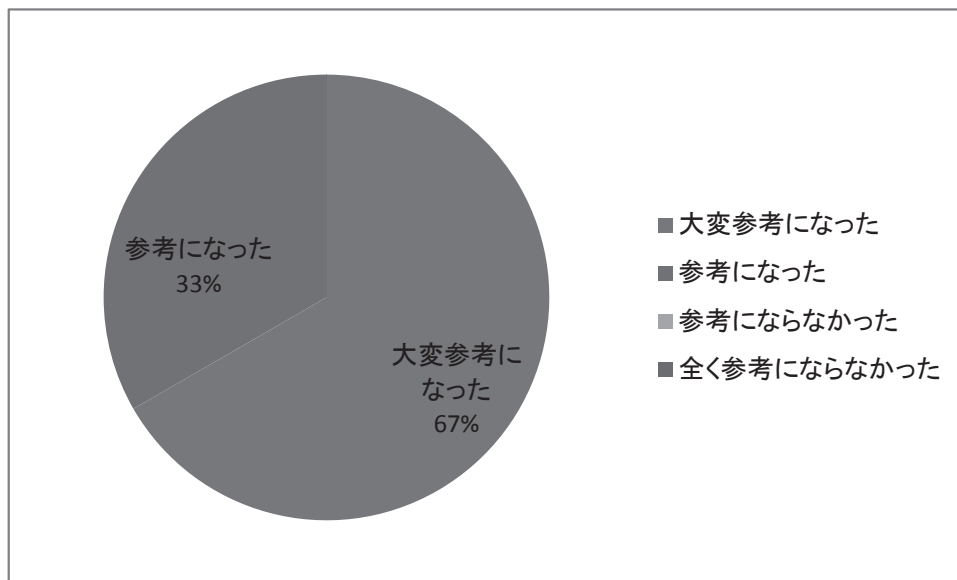


- ・他市町村等の発表は、大変よかった。
- ・「ゆるさ」が強みでもあり弱み。まずは顔をあわせることが重要なのだと思った。
- ・素晴らしい活動してますね。広域性は特に感心しました。
- ・20分での説明でもわかりやすかった。参考にしたいことがたくさんあった。
- ・生涯学習について異業種間交流が図れ、人と人とのつながりの大切さを感じました。
- ・学びとは何かがよくわかった。
- ・他の団体とのつながりもあるとよいだろう。



C 地域課題の解決に向けた取り組み

「未来のツクリテを育てるコサイエの取り組み」

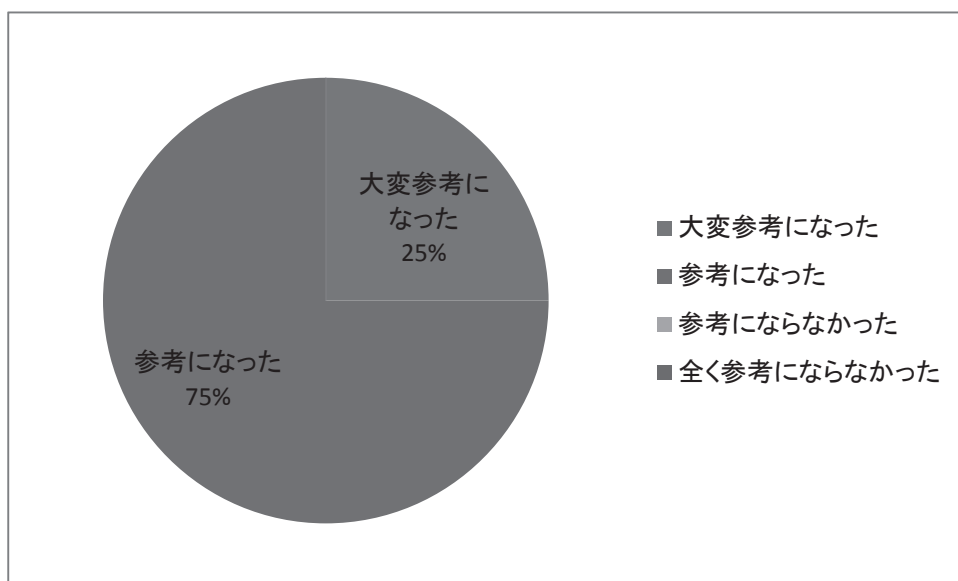


- ・時間的には、無理があったが、全体を通して、それぞれの持つ意味がわかったように思った。
- ・まちづくりにおいて、人と人、人と場のつながりが大切であり、一からつくるという信念が伝わってきた。
- ・人やもの、土地のプラットフォームを作るような形。
- ・産学連携の産のアイデアはすばらしい。予算面で莫大なものを感じる。



D ボランティア関係

「民間ボランティアが行う通学合宿」



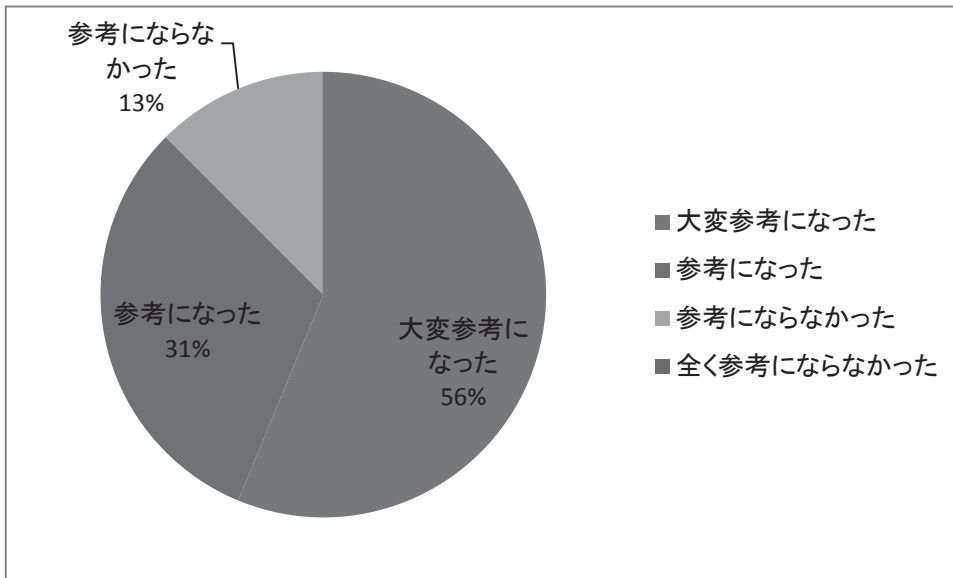
- ・潤沢な資金があればこそなしえた事例であるが、今後の課題など当方とリンクするところが多く参考になった。
- ・地域の方の力、子ども、若者の可能性を感じることができました。
- ・民間での取り組みは行政と違って良かった。



E 青少年教育

「福島の子供たちが、福島のこと、自分のこと、社会のことを知り、改めて福島のことについて考え、自分の力で未来を切り開く力を育む」

～福島こども力プロジェクト 「福島こども未来塾」～



- ・大変参考になりました。
- ・各施設の具体的な取り組みが聞けて参考になった。自分たちの施設にも、ぜひ取り入れたいプログラムを見つけたことができた。
- ・各機関の取り組みからヒントを得ることができた。
- ・内容は興味深い。事業の予算が大きすぎて、当施設では現実的ではない。
- ・事業の運営について考えることができた。
- ・活動の内容紹介がわかりづらかった。活動自体はすばらしく、子供たちが生き生きとした表情、変化がよくわかった。いろいろなところで続けてほしい。
- ・発表内容がわかりづらかった。
- ・学校や社会教育施設だけではできないすばらしい活動だと思った。
- ・社会教育の熱さ、活動を通して得られるスキルの大切さについて、強く感じた。
- ・短時間で動画も含めての発表そのものがすばらしいと思いました。

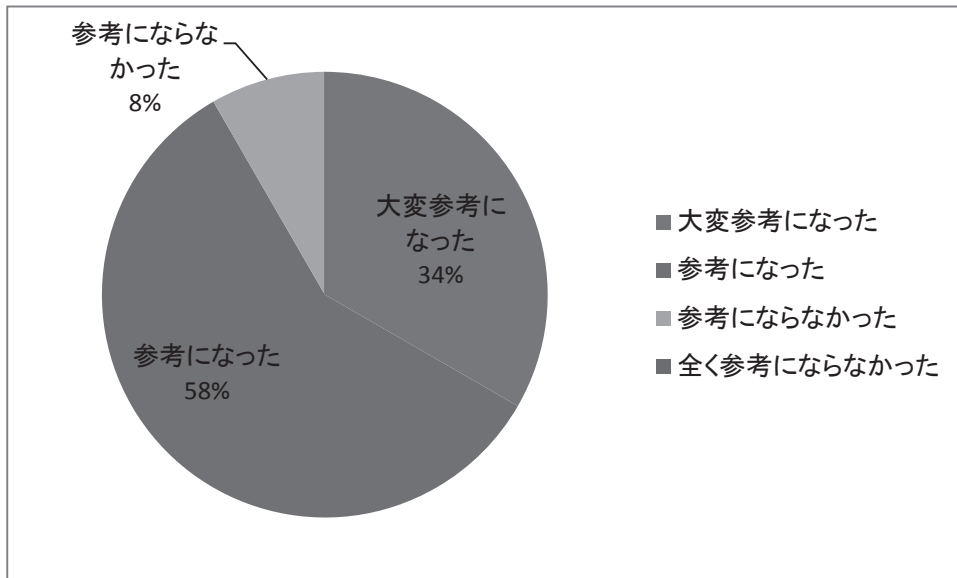


④16:45～17:30

A 学校・家庭・地域の連携

「六実っ子まつり，ふれあい体験学習ってなあに？」

～地域活動を広報する取り組み～



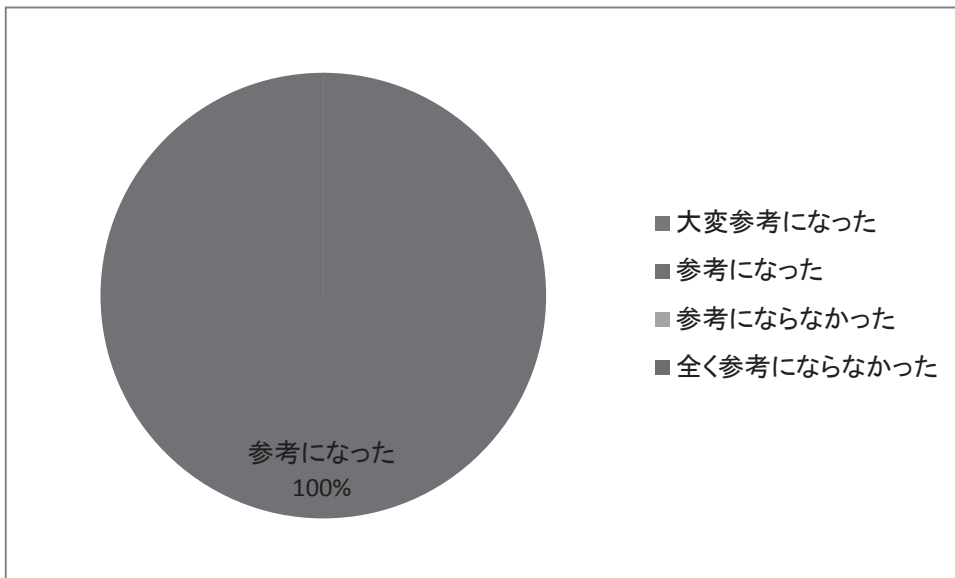
- ・ マンネリ化した行事，役員数の減少など，どこでも課題になっている内容でよかった。課題解決は難しいが，内容再検討，実行委員の選出方の再考の必要があったと思った。
- ・ 発表の時間が長くなったがなんとかできた。
- ・ 学校の事情を知れてよかった。
- ・ もっと地域との交流をすべきと思った。
- ・ 広告を募集し，地域新聞に載せて，広告料を活動費の足しにできると思った。
- ・ 地域と連携している。
- ・ 六実っ子まつりが続いていけばいいと思った。



B 指導者養成・研修

「I want you! 地域は学校の応援団」

～東葛地区学校支援地域本部事業～

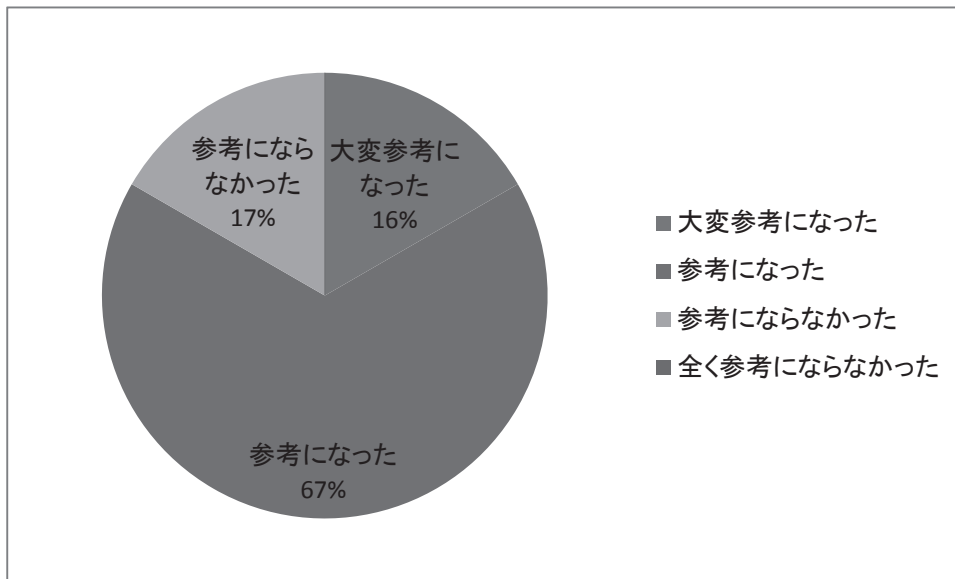


- ・他市町村等の発表は、大変よかった。
- ・コーディネーター側、または学校側の視点はどうなのか知りたい。
- ・地域の協力者とコーディネーターの資質の向上を図ることが課題になっている。
- ・それぞれの事例は良いと思うが、少々駆け足だったようだ。



C 地域課題の解決に向けた取り組み

「ど田舎再生！地域活性化の鍵は『家族の絆と世代・地域を超えた多様なつながり』」
～横枕青年団の実践事例をもとに考える～



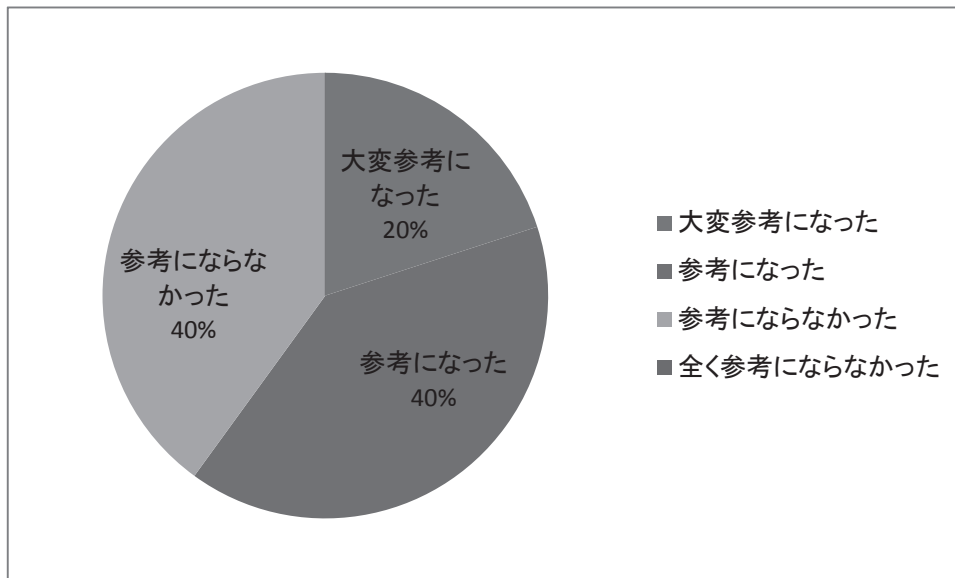
- ・ど田舎だからこそ、ここがすごい！というところを探して欲しいです。
- ・若い人も頑張っていると思った。
- ・紙面から伝わるもの以上の熱心な取り組みがあることと思われ、日頃の努力に頭が下がる思いです。
- ・時間的には、無理があったが、全体を通して、それぞれの持つ意味がわかったように思った。
- ・課題の共有はできたが、ノウハウや手法は学べなかった。
- ・青年団という若い力が集まり、地域活性化への取り組みを行っていることに感心した。
- ・ありきたりな活動であるように思います。
- ・活動し始めたばかりなので、これから実践をつみ重ねてほしい。
- ・人と人とを結びつける取り組みの核となって活動される姿に感動しました。
- ・がんばれ青年団！
- ・地域のなかだけでなく外から来てもらえるように宣伝の仕方を変えた方がいいかなと思いました。



D ボランティア関係

「ボランタリーアクションの新しい「カタチ」」

～豊島区みらい館大明の事例をもとに～



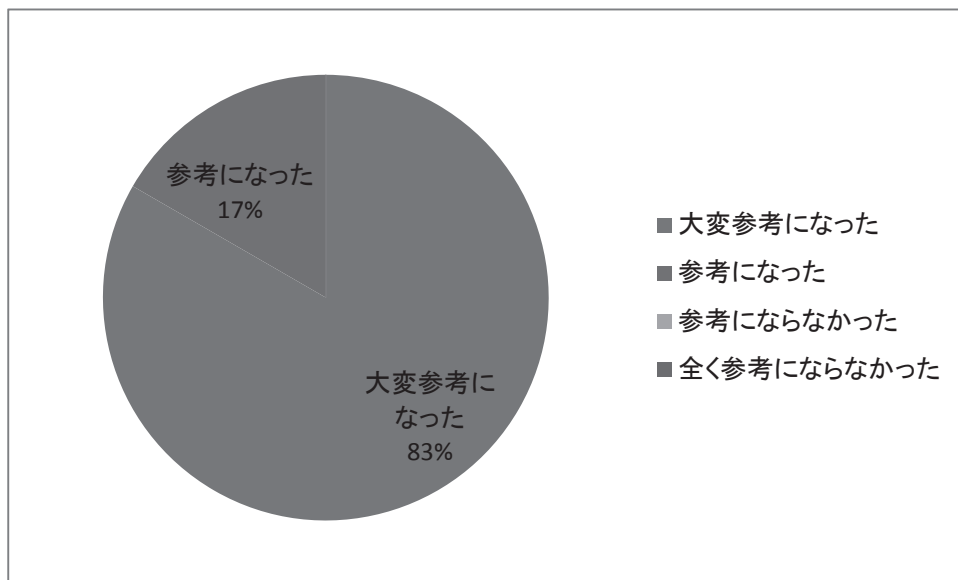
- ・事例としての発表は、すばらしかったが、茨城と東京の格差は大きく参考にはならなかった。
- ・こういうやり方もあるというのはわかったが、茨城では、または水戸では難しいと思う。
- ・閉校施設の活用例としては、とてもすばらしい事例であったが同じ取り組みができるかは難しい。



E 青少年教育

「福島復興支援事業 なすかしドリームプロジェクトⅣ」

～ 一人はみんなのために みんなは一人のために ～



- ・ 大変参考になりました。
- ・ 各施設の具体的な取り組みが聞けて参考になった。自分たちの施設にも、ぜひ取り入れたいプログラムを見つけることができた。
- ・ 各機関の取り組みからヒントを得ることができた。
- ・ 若者の支援やボランティアの新しいかたちについて等、聞きたいことが全く聞けなかった。
- ・ 14日間の厳しい環境が生み出す成果がすごく勉強になりました。
- ・ 職員の方の負担の大きさに、そのご努力感心いたしました。

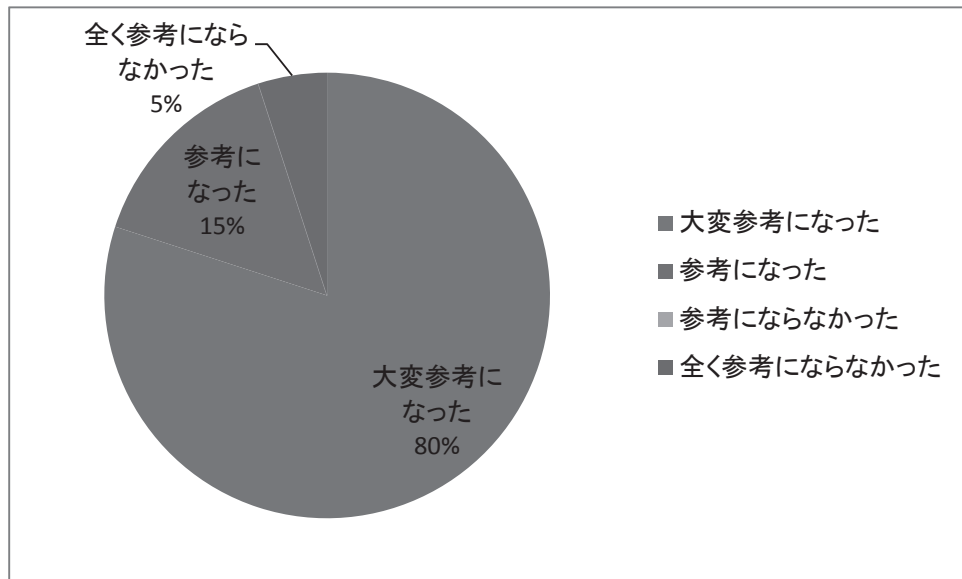


○ 事例発表後には、小グループでの協議の後、全体で課題解決に向けて意見を出し合いました。



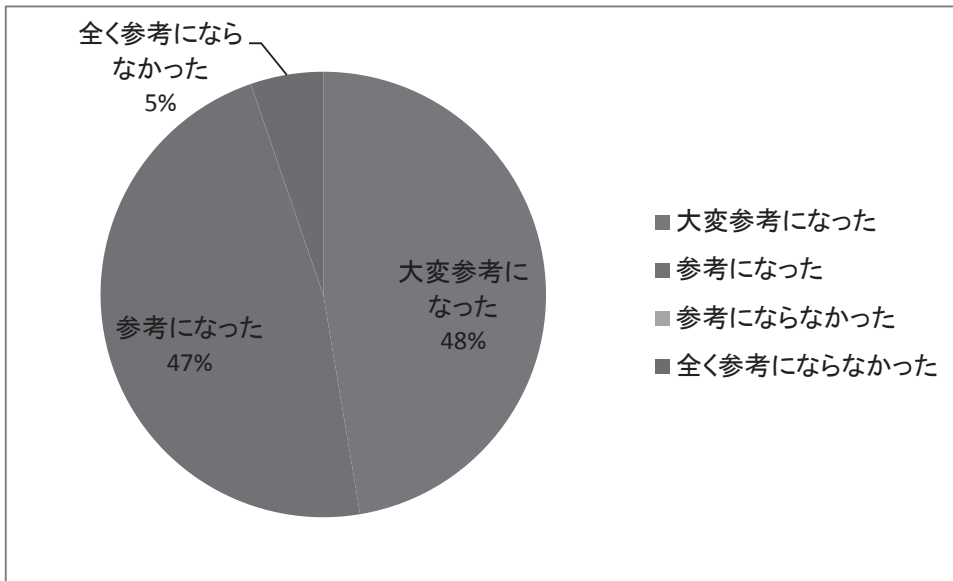
4 支援スキル研修

＜初級＞ 茨城大学社会連携センター 准教授 長谷川 幸介 氏



- ・明快なお話で感銘を受けました。1時間しかないのが残念でした。
- ・密度の濃い時間でした。わかりやすく、おもしろかったです。
- ・様々な例示で、とてもわかりやすく話してくださった。日常の業務の背景を理解でき、頭がスッキリした思いです。
- ・社会教育の大切さがもっとわかりました。
- ・初級から上級的な内容まで参考になった。
- ・社会の幸せを増やす種まき活動、自分には何ができるだろうと改めて（反省を込めて）考えました。
- ・わかったようでわからない。でも満足感を得ることができる不思議な気持ちになりました。
- ・ヒントいただきました。
- ・社会教育の理念（学校教育の対概念ではない）を常において、地域の人が幸せになるために仕事をしたいと考えました。
- ・長谷川先生の講話を久しぶりに受け、あらためて縁について考えさせられました。
- ・社会教育の考え方がとても分かりやすくあらためて参考になった。とても短い時間の中で、地域課題の整理について学べたのは良かった。
- ・社会教育について分かりやすく教えていただきました。
- ・途中参加であったため、深く理解が難しかった。

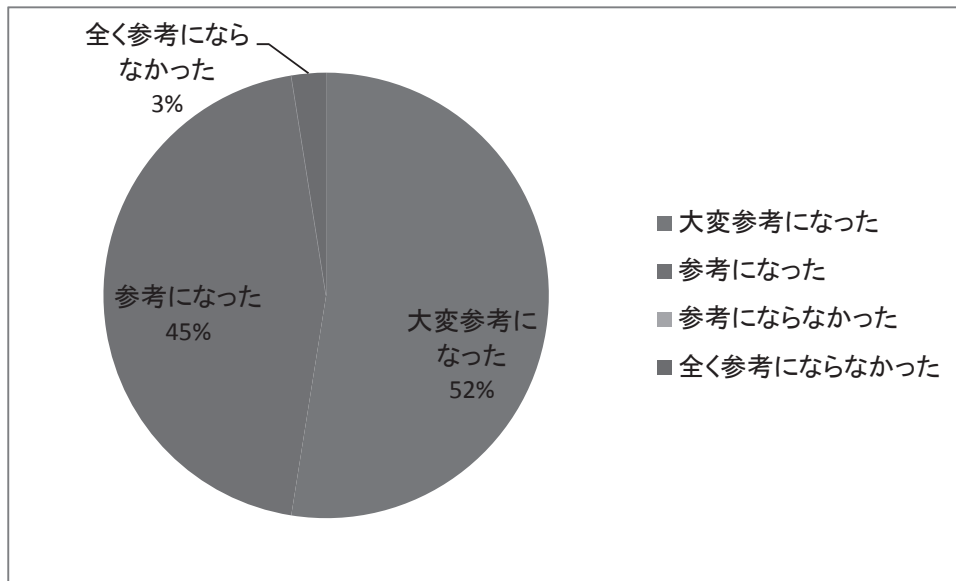




- ・対話について学び、明日から実践していこうという気持ちが持てた。
- ・牧之原市の事例など、とても参考になりました。佐藤先生のご講義そのものはとてもよい機会でしたが、タイトルからイメージしていたのは実際に体験するのかなと思っていたので、少々残念でした。
- ・人材の育成の仕方の手法として参考になった。実践したいと思える事例が多くあった。
- ・地域の課題解決に向けてファシリテーター育成の重要性を認識できた。
- ・行政と市民とをどのようにつなげていくか具体的な事例をもとに講演いただき、刺激になった。
- ・牧之原市の実践、とても参考になりました。
- ・地方創生→人材の養成、2つの事例→大変参考になった。特に議会の取り組みはタイムリー。
- ・視野を拡充することができた。
- ・得るところありました。帰ってよく考えてみます。
- ・私たちと違った視点からの色々な取り組みが参考になった。
- ・本市の課題について、とても参考になる講話でした。
- ・生涯学習、社会教育について、「政治学」の立場からのパースペクティブがなかった。



5 全体会



- ・短時間ながら、様々な実践を伺い有益でした。進行の長谷川先生の技法、話術に感心いたしました。
- ・様々な経歴の社会教育担当者とお話する機会があり、考えや見方が広がって大変参考になった。
- ・対話を通して様々な課題が明確になり、「自分事化」の大切さを知った。
- ・対話の実践ができ、楽しく参加することができた。
- ・異業種間の交流の時間となって、よいヒントをたくさんいただきました。
- ・交流による情報がたくさん得られました。
- ・家庭教育について自分が気づかなかったことがいろいろな人の意見が聞けて良かったです。
- ・多くの方と交流させていただき、つながりができた。このつながりを実践につなげていきたい。
- ・様々な方の情報を得ることができた。
- ・座学でなく対話型だったので、充実した研修だった。
- ・時間が足らなかったが、いろいろな立場での参加があり、今大会への関心の高さがうかがわれた。
- ・ワールドカフェは、全身で学ぶ活動ですね。もっと時間があっても良かったのでは。
- ・多種多様の方と接することで、今後の情報源を確保できた。
- ・少し時間がたりなかったのが残念、もっと話を聞きたかった。
- ・いろいろな立場の方と話をすることができました。
- ・ワールドカフェですが、自己紹介で終わるのは効率わるいです。
- ・より多くの人との出会いを設定していただきありがとうございました。
- ・短い時間での意見交換は得られるものが少ない。



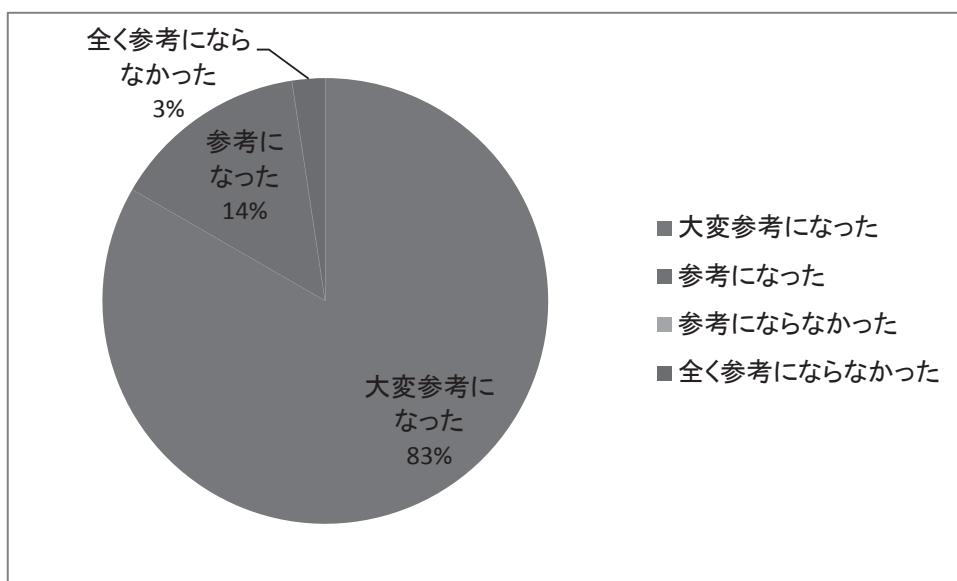
- ・このような対話を行うことは知らずに来てしまい、自分としてはうまくいかなかった。
- ・興味深い内容ばかりでした。



6 特別講演

『社会教育不要論への挑戦 ～学習から教育への再修正こそ立国の条件～ 』

月刊生涯学習通信「風の便り」発行人／編集長 三浦清一郎 先生

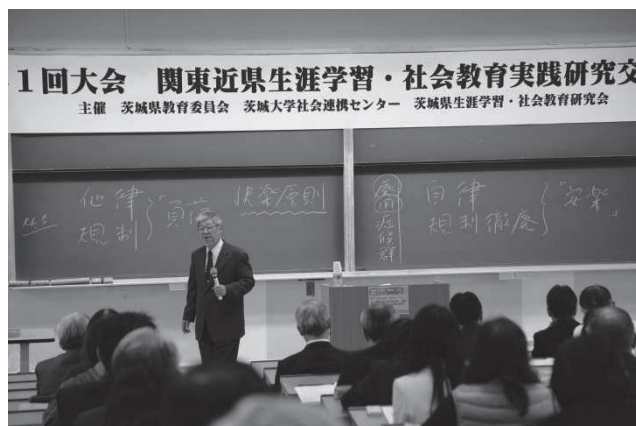


- ・教育学部ではないので、普段の学内や学会では聞けない内容でした。全くわからないで参加させていただきましたが、非常に良かったです。新しい発想にもなりましたので、来年もよろしくお願いします。
- ・ユーモアを交え、大変おもしろく、納得できる部分も多くありました。自律のもとをつくるのは教育であるかと思いました。最初のスキル

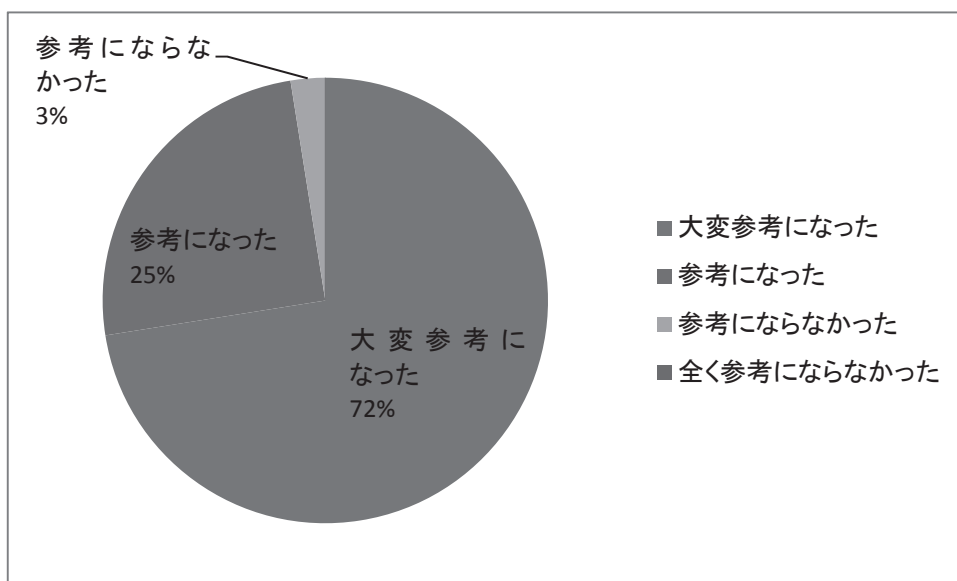


研修の長谷川先生のおっしゃった「Storyを作る」ということともつながると感じました。

- ・「今、行政が何をやるべきか」について、とてもわかりやすくお話いただきました。大変参考になりました。
- ・熱い！おそらく、辛らつ、かつ考えさせられる点が多々ありました。人として負荷をかけた生活を送らなければとあらためて思いました。
- ・学習から教育への回帰、これが立国の条件、まさにその通りです。
- ・とても刺激的な言葉をたくさんいただきました。社会問題の大きさを今すぐにでも何かできることに手をつけなければならないと感じました。
- ・幅広い視野で熱意あるお話をうかがえて、大変勉強になりました。
- ・三浦先生の熱い思いがひしひしと伝わってまいりました。使命感をもって努力させていただきます。
- ・とても分かりやすく、考えさせられるすばらしい講演でした。
- ・熱いお話ありがとうございました。
- ・教育での市場化が国を救う。熱いお話を聞かせていただき、ありがとうございました。
- ・はっきりとした内容でよかった。
- ・新しい視点をいただきました。
- ・個人の意見を語ったことがよかった。
- ・社会教育の必要性和、できないこと、再認識でき大変よかった。
- ・廃用症候群の話、自分の年齢等を考えると非常に刺激を受けた。
- ・学習、教育という概念について学ぶことができた。
- ・公民館職員全員にきいてほしい内容でした。
- ・社会教育政策を再考することが、地方創生、人口減社会に立ち向かうことにつながるとわかりました。あらためて意欲を持って、社会教育に携わる気持ちが増しました。
- ・教育の重要性、学習との違い、教育の推進について、熱く語っていただき、視点がさらに広がりました。
- ・とてもよい講演でした。
- ・驚く話ばかり、とても有意義な時間でした。
- ・とても意味のある深いお話をお聞きできた。
- ・国家が地方の様々なことまで援助すべきという「大きな政府」が根底にあると思われるが、もう「大きな政府」の時代ではないため、消化不良だった。また歴史について（参勤交代、近代化等）についても新書、文庫レベルの偏った知識で語られても浅い議論にしか聞こえなかった。
- ・特別講演のみの参加でしたが、非常に興味深く拝聴させていただきました。
- ・力強いお話を伺い、色々と考えさせられました。



7 本大会全般



- ・参加して良かったと思うすばらしい会でした。来年も継続してください。
- ・今年は、11月8日しか参加できませんでしたが、来年は2日間参加したいと思います。ありがとうございました。
- ・8日のみでしたが、参加できて本当に良かったです。息切れしないように長く続く会になることを強く希望します。
- ・2日間にわたって盛りだくさんの内容に触れることができ、大変参考になりました。
- ・様々な角度から多角的に研修ができました。ありがとうございました。
- ・来年もぜひ！
- ・大変良い交流会でした。
- ・様々な関係機関の実践をすることができたのが一番大きな収穫であった。人と人がつながる大切さをあらためて感じた。
- ・熱い思い、取り組みを共有することができた。
- ・第1回目としては、よくできていた。
- ・すべてを通して参加したことで、意識の高さがわかった。
- ・各県の参加者が今回の交流会が有意義だったと感想を述べていました。実行して良かったですね。
- ・事例発表の分科会、それぞれ盛り上がり、2日目の講演会も大変興味深く、過ごさせていただきました。準備企画された方に感謝します。
- ・2日目だけの参加でしたが、大変参考になりました。来年もぜひ参加したいと思います。
- ・社会人の方や、他大学の方と接することができ、非常に貴重な体験ができた。それぞれ特色の



あるアイデアや信念、熱い思いで地域課題の解決に向けた取り組みをしており、参考となった。

- ・新しい発想が今後の地域をささえるものになるのではないかと思います。
- ・様々な年代（世代）の方の意見を聞くことができてよかった。また機会があったら参加したい。
- ・教科教育にはない熱い思いを感じた。実践するための“熱”の大切さをあらためて見直す機会になった。
- ・初めてこういった講義に来たので新鮮でした。
- ・勉強になりました。
- ・運営の皆さんはもちろんのこと参加者の意欲が高く、素晴らしい大会であったと思います。学生の参加も多かったのが良かったといえます。



8 その他（意見、感想等）

- ・第1回ということで、企画運営を担当した方々は、大変ご苦労があったと思います。これからもずっと継続し、実践研究の交流が深まるといいと思います。
- ・協議のスタイルが効率的でとてもよかった。廊下のメッセージ板のアイデアもよかった。（書く時間はあまりなかったが・・・）ぜひ、毎年続けていただきたい。ありがとうございました。
- ・三浦先生のお話、もっと聞きたかった。分科会がたくさんありすぎて、選択に困った。全体的に時間制約が厳しく、もう少し余裕のあるプログラムにしてほしかった。
- ・1日目「夜の」交流会だけでも参加すれば良かったなあと考えております。活力あるやりとりがあったことでしょう。次回は、参加者に名札持参を促しては？
- ・次年度以降も継続していただき、広く、社会教育主事の学習の場の提供につなげていただきたいです。今回、多くの社会教育行政側の参加者と交流することができました。学校から地域連携担当職員に多数出席していただけると「つながる」場として、さらに可能性が広がると思いました。
- ・とても勉強になった。素晴らしい交流会でした。参加者の質と意欲も高く、とても参考になり、自己啓発にもなりました。事務局の準備運営も大変だったと思いますが、さすが茨城県教育委



員会！すばらしかったです。

- ・第1回大会を開催していただいた実行委員会，その他の関係者の方々に感謝したい。ありがとうございました。
- ・茨城県の皆様，大変お疲れ様でした。様々な立場の方，学生，市民，産官学の参加ができていくと良いと思った。参加できて良かった。本当に課題を解決していくためには一部だけでは無理だと実感。
- ・大変お世話になりました。
- ・顔のわかるネットワークづくりの大切さを改めて学びました。
- ・今回の交流会を企画し，お忙しい中，様々な準備をしてくださった担当者の方々，関係者の皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。
- ・宿泊型で実施できますか？
- ・参加者名簿が必要です。
- ・継続してください。大変ありがとうございました。
- ・情報交換会の場所は，宿泊者を考えたら，もう少し宿泊場所に近いと良かった。
- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・運営企画よくここまで作りました。ありがとうございました。
- ・お疲れ様でした。大成功でしたね。次年度も更なる会の発展を期待しています。
- ・一コマをもっと長くして，じっくりと話を聞いたり，映像を見られたらよかったと思います。
- ・常に新しい発想があり，独自のものをブランド化させる必要があると思いました。ありきたりなものではダメになるだけだと思いました。
- ・すばらしい発表を聞き，または参加者の交流（グループの話し合い）が持てたのが大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・継続開催お願いします。
- ・各県版もあると良い。
- ・とても参考になりました。ありがとうございました。
- ・交流会の成功，大変おめでとうございました。
- ・大変勉強になりました。他の会場の発表も勉強したかったです。資料だけでもいただければありがたいです。
- ・全体的に時間に追われた感がありました。もう少し発表も競技も深められたら良いと思いました。事務局の方々ご苦労様です。
- ・事例発表の時間がもっと欲しかった。
- ・発表時間事態は短く，概略的にならざるを得ないが，討論の時間があり，非常に有意義であった。



6 事例発表協議メモ集約結果

A-① 「野友の山猿化計画（小規模校だって負けないぞ!）」

～地域と共に歩む学校づくりを目指して～

- ・ 地域との連携で、企業とも連携してはどうか。
- ・ 小規模校の特徴を生かしていくべきではないか。
- ・ 月2回くらい各家族が学校へ集まり、様々な活動ができるのではないか。
- ・ 統合後が心配。
→大人数の学校になった時の学習に対して心配がある。アフタースクールを開設してはどうか。
- ・ 地域の拠点だった学校がなくなる心配がある。→市の育成会が中心となって地域がつながる行事をつくっていく。
- ・ 地区の交流会を開く→学校で開くことで、教員と地区の交流ができる。

A-② 「夢に向かってチャレンジできる児童の育成」

～学校・家庭・地域パートナーシップ推進事業～

- ・ 学校のニーズ
→講師との打ち合わせ（時間をかけて）
- ・ 保護者の理解
→実態を踏まえて4月当初に説明（PPTを使い総会で）
- ・ 人材派遣、連携をどう密にしていくのか。
- ・ 交流センター（日立）に問い合わせるといい。（多くの人材）
- ・ 講師が慣れすぎて→講師が強くなりすぎて、わがままになってくることもある。
- ・ ニーズの把握は？ 直接的なコミュニケーション、直接話をして、子どもの声が一番
- ・ コーディネーターとしての資質は？社教主事講習はもちろん、謙虚な態度で望むことが大切。

A-③ 「悩みを抱える青少年に対する支援」

～G-SKY Plan 事業について～

- ・ 学力が低い子どもは、自己肯定感が低い。そういった子どもの意欲を高めるためには、様々な作業体験をすることで認められる経験をすることで変わっていくことができる。
- ・ ひきこもりの子どもの中には、まったく社会へ出ようとしない子どももいるのではないか。また、そのための方策はないのだろうか。
→在学している学校や関係機関と連携して行う。
- ・ 青少年の支援に対する中で、カウンセリング的な面も必要ではないか。
→臨床心理士を配置予定。
- ・ 体験場所を確保する苦労はないのか。
→地域の保護者等の協力で依頼。
- ・ 18歳以上の青少年に対する就業支援はどこに相談すればよいのか。

A-④ 「六実っ子まつり、ふれあい体験学習ってなあに？」

～地域活動を広報する取り組み～

- ・教職員が1日勤務
→ボランティアを募集してはどうか。
- ・新人戦の時期で参加できない。
→日を変更してはどうか。
- ・かき氷→劇、出し物、祖父母も参加できる出し物をやってみてはどうか。
- ・屋台の運営→大人に任せる。
- ・屋台の準備→子どもに任せる。総合学習で。
- ・父親の会→母親のみの交流になりがちな学校が多い中、大変すばらしい。
- ・運営費が出なくなった。
→協賛金が必要、募金を呼びかけ、企業にPR

B-① 「公民館・市民センター等における学習プログラム開発について」

～生涯学習調査・学習プログラム開発事業～

- ・ハンドブックをどう活用するか。
→公民館、市民センターだけでなく集会所でも利用。年数をかけてフォローアップが必要。活用した後のふりかえりも必要。
- ・ハンドブックを加除できるものがあるとよい。
- ・活用できる人をどう育てていくか。
- ・市町村にどう届けるか。

B-② 「地域連携教員活動支援事業について」

- ・教頭と地域連携教員となった教頭との違いは。
→県として、大きな職務を提示しているが、学校の実情に応じており、決まった形はない。
担任が行っているところでは、どのような点がよいか研究の対象にもなっている。
今後どのような業務を行っているか集約する。学校の実態によって分担が違う。
有資格者を増やす。
- ・異動の際の引き継ぎの問題は。
→組織で動いていく仕組み作りが課題。
コーディネーターと共に研修を受けることも必要。
- ・地域との連携がよくなったのは。
→研修後、小さなことでも地域に依頼してよいと発信できる。(包丁研ぎのボランティアなど)
担当となったものの時間外勤務の課題あり。

B-③ 「人はなぜ、仕事帰りに学ぶのか？ 学ぶだけじゃない！ まなびいカフェ」

- ・他業種との交流がすばらしい。さらにサブの交流会があるとよいと思う。世代を限定するとおもしろい。

- ・広報が課題である。
- ・出張カフェ，目的をもって集まるカフェなど。
- ・趣旨とは違う内容でも学習していくことは考えているのか。
→社会教育行政にいたものが多い。公民館に行きたいが，行けない人がたくさんいるのではな
いか。
- ・設立は。
→まなびピア埼玉での200万人を超える参加者。この盛り上がりを維持していきたい。その
場所がまなびカフェ。

B-④ 「I want you！ 地域は学校の応援団」

～東葛地区学校支援地域本部事業～

- ・地元意識がないところ，コーディネーターの得意不得意もあるか。
→コーディネーターの不足が問題。大学生をボランティアとして取り入れている。大学の先生
に協力を得ている。
- ・コーディネーターの探し方，ボランティアの研修，スタッフ欠員の際の対応は。
→放課後子供教室を借りる際の市の対応が違う。部活動への支援はまだない。ボランティアの
研修はない。コーディネーターから指導。ボランティアは有償。
- ・コーディネーターがどこまでできるか。事務局の機能をどこに置くか。
→福祉部局が責任を負う。連絡等は，学校から行うことが多い。部屋を持つところもある。

C-① 「街がないなら作ればよい！ 新しい挑戦が人を変える！」

- ・カミスガ前の重鎮の人々はどこにいったのでしょうか。
→始めるときに商工会にあいさつに行った。なんとか1回やらせてもらった。
- ・行政との連携があったからできたのではないのでしょうか。
→行政との協力は，なかなか得られなかった。
- ・やり始めたときは，人が集まらなかったのではないのでしょうか。
→震災復興のときだったので，初めからたくさんの人が集まってくれた。
- ・とてもすばらしい取り組みで，自分の地域にも広がればよいと思う。
- ・いろんな取り組みを，いくつも平行して進めているので，続けていくことが難しいという課題
がある。
- ・行政の方を巻き込んでみたらどうか。（地域に戻れば地域の人なので）
→商工の方とは，すでに連携している。

C-② 「子どもを見守る地域の輪」

～子育て応援事業「親の学習」講座～

- ・「親の学習」は8年目になるが，継続するためにどうすればいいか。終着地点はどこにあるのか。
- ・三郷市の223講座を実施していることはすばらしいと思う。これだけ長く続いていて成果が
見えているので継続できていると思う。ファシリテーターが育成されることが終着地点になる

のでないかと思う。どのようにして、ファシリテーターになる人を見つけているのか。

→市民会議の中から養成講座を受ける人を見つけていたが、資格取得のために8時間かかるため、短期で資格の取れるサポーターをつけ、その後ファシリテーターになったりしている。

- ・開催時期を定期的にする、夜の開催などで父親などを巻き込む。学生ボランティアを巻き込めば将来的にファシリテーターになっていただくことで、終着地点になると思う。

→親の学習会を開催しませんか？の問いかけをし、主催者側からの依頼を受けて、ファシリテーターを派遣するという形になっている。

- ・聞いて欲しい人にどう届けるのか。子どもの教育に関心のない親をどう引き出すのか事例があれば聞きたい。保護者間でのつながりづくりを終着点とする。

→教育委員会の入学時説明会や検診などの時に必ず「親の学習」を実施している。そこで親同士のつながりをつくれるようにしている。悩んでいるもの同士が話し合いができるような場をつくりたいと思っている。

C-③ 「未来のツクリテを育てるコサイエの取り組み」

- ・フューチャーセンターをつくる時、どのように話を進めていったのか。

→ワークショップで話し合ったり、近所の地主さんと知り合いだったりして進んでいった。

- ・産学官連携で、なぜリコーを選び、なぜ海老名市だったのか。なぜ会員制にしたのか。

→リコーが海老名市に5,000人の科学者がいたので、地域に貢献したいということでスタートした。収益がとれないとビジネスとして成り立たない。普通の学童と混同してしまう。

- ・学校教育以外で学ぶことができるので、産学官連携のお手本のようなものだと思う。

- ・コサイエを通して、パイプをつくることで大切にしていることは何か。

→一番大事なことは、ビジョンである。ビジョンの共有が大事である。

- ・これだけのお金がかかって、どのくらいの人に参加しているのか。運営スタッフは、何人くらいいるのか。どのくらい行政が関わっているのか。

→東京と比べると6割ほどの料金である。スタッフは、20～30代で4名いる。行政とのかかわりは、なかなか難しいが、少しずつ始めている。「相模ロボット産業特区」「科学未来館」と連携している。

C-④ 「ど田舎再生！地域活性化の鍵は『家族の絆と世代・地域を超えた多様なつながり』」 ～横枕青年団の実践事例をもとに考える～

- ・「ほたる祭り」「花火大会」は、とてもよい内容なので、地区以外の方々に向けて発信してはどうか。後継者問題は、どういう形にしようと思っているのか。

→外に向けて広報はしている。(チラシ、SNSなど)産業などは、特にないので、横枕で将来やっていこうという人は、なかなかいないため、横枕に住み、外で働くということでもよしとしていければと思う。

- ・泥リンピックなど、とてもよいイベントだと思う。青年団の年齢層とイベント協力者の出席率は悪くならないか。

→青年団は、27名（うち女性3名：横枕出身）。24～42歳で、30代が多い。役員が年8

回くらい集まるが、実行委員を若手に任せ、出席率をあげている。同時にマンネリ化をふせぎ、新しいことをすることで、楽しみながらやることを心がけている。

- 出会いイベントは、男女とも横枕なのか。
→横枕の青年団員3名を含め、男性15名、女性15名の30名。

D-① 「生涯の学びにつながる学生の社会参画活動」

～ユニバーサルビーチでの活動報告（大洗サンビーチでの体験から学んだこと）～

- 社会人40名の年齢構成について。
→40代10%, 30代40%, 20代50%, 東京の大学生だけでなく地元ということで、茨大生と連携。
- 泳げないといけないのか。ビーチでの参加募集はあるのか。
→講習で資格取得。（タワーレスキューができる。）
泳げない人は、「ビーチサポーター」として活動。
スポーツキャンペーンに募集はするが、スタッフ募集はしていない。
- メンバー増による「思い」の引き継ぎ方法は。
→喜びや意義を伝えるのは難しいし、つらい。10人入ったら、5人はやめる。試行錯誤の連続である。1対1で語り、話し合っていく。弱い代は、コミュニケーションが弱い。
- 一般の方が、活動を見て入隊することはあるか。
→レスキューデモンストレーションや活動ぶりを見ての入隊希望者はいる。
- うれしかったことは。
→後輩が育っている。成長している。人の成長に自分も貢献できていると感じる。継続するモチベーションになっている。

D-② 「私たちにできるボランティア活動」

～ 高校生から（15年間）の歩み～

- 高校生が小さい子を遊ばせたり、商業体験活動をしたりという講座があるが、その研修の中で、話をしてもらいたい。感動した。
- 活動資金は。
→かかるのは自己資金。保険も自己資金。
- 研修体制は。
→大学生10名。NPO法人の所属者3～4名。公民館で講座をもったり、大学で講座をもったりしている。安全面で必要なものは、必ず受講するようにしている。
- ボランティア活動が続けるのに大変なことは。
→好きだから健康なうちは自分はやめない。やめるという人は追わない。人数の確保が大切。
- うれしいことは。
→人と関わるのが楽しい。人との出会いが財産。自分と関わることで、相手が変わってもらえたとき。

D-③ 「民間ボランティアが行う通学合宿」

- ・東金の通学合宿は千葉で最初（20年前）
- ・学生企画プログラムの内容
 - タイムスケジュールは決めずに合宿が始まってから子どもたちがつくる。自己紹介のレク，翌日のお楽しみ企画のみ大学生が企画。
- ・個人の集まりか。
 - そうである。
- ・年1度の時期は。
 - 9月最終土曜日から。大学生の夏休みにあてている。
- ・食費は。
 - 16～17万程度。
- ・どこにお金がかかるか。
 - 施設清掃5万，食器光熱費3万，送迎にタクシー代8万（事故対応）
- ・ボランティアも宿泊か。
 - 大学生は宿泊。
- ・医師，看護師は。
 - 我々のメンバーである。
- ・東金との違いは。
 - 行政より自由。夜も12時くらいまで起きている。厳しく管理せず，自分で気づくようにしている。
- ・小学5，6年で，異性間のトラブルは。
 - トラブルはない。男女の部屋，風呂を分けている。
- ・20名の募集方法，選抜方法，食物アレルギーへの対応は。
 - 同中学校区5校の小学校に募集（6月）。オーバーの場合抽選する。大勢だと効果がないと感じている。アレルギーについては，事前説明会で対応。

D-④ 「ボランティアアクションの新しい「カタチ」

～豊島区みらい館大明の事例をもとに～

- ・1,000団体が登録しているとあるが，どのように募集しているのか。
 - 募集はホームページのみ。
- ・豊島区ではできるが，茨城でも可能と思うか。
 - 人口密集地だからできるのだと思う。茨城はロケーションボックスとして有益なものを持っているので，それを生かしてはどうか。
- ・清掃ボランティアと有償清掃の線引きは。
 - 日々はスタッフで行っている。スタッフは卒業生が多いので，気持ちよくやっている。大掃除，木の伐採等は，ボランティア。来る者は拒まない。オープンな雰囲気を守っている。
- ・施設の管理費は。
 - 日々の故障は自分たちで修理している。耐震工事は区が3年前に実施した。

- ・東京23区は、政令都市制度のようにやっている。施設整備より人材整備を優先せざるを得なかった。たとえば、豊島区の「青年館」はなくなった。その代わりのNPO法人化であるが、社会教育がもっと都の中で、充実するためには、今のような形をとりながら充実させていく必要がある。

E-① 「感動・夢体験 in のびのび夢スクール」

～適応指導教室との連携を通して～

- ・どうしても学校は何とかなしようにするが、うまくいかない。子どもの不適応は、学校の枠だけでは無理。
- ・小学生の参加が少ないようだが、中学生などの上級生が兄姉の存在で自信につながる。
- ・看板をつくって、途中の世話等は職員が行ったと思うが、収穫時に人数が増えたのはよかった。
- ・カウンセリングの先生は入っているか。職員の数は。
→市教委の指導主事に参加してもらった。担任の先生に見てもらうのもよいのだが、あくまでも学校と切り離す。(来ることによってマイナスになることが悩み。) 職員は8名(技術スタッフ等)、名刺交換の際に、孤立してしまう子をつくらないために複数必要。保護者の参加は自由に行っている。
- ・児童生徒対象だが、これから青年の家としての計画は。
→引きこもり、ニートなど18歳以降が孤立。一人ひとりがつながるように。「わくわく山コン(婚活)」などを計画している。ピンポイントでは無理。
- ・9市町村のうち参加していない5市町村は。
→適応指導教室にも登校できない子どももいる。送迎対応がネック。

E-② 「国立青少年教育施設の役割

～いま、交流の家で何が起きているか～

- ・学校週5日制から、最近では学力向上へと社会状況が変化している中で、社会教育施設として、「体験活動」と「学力向上」について、その兼ね合いをどうとらえて取り組むべきか。
→「学力向上」という面では、学習合宿のみでの利用が主流になってしまっているが、コミュニケーションスキルを身につけることも非常に重要であるととらえているので、そのような活動を取り入れてもらえるようアピールしている。
生活体験の不足が心配である。先生も子どもたちと共働してもらいたい。共同生活の中から学べるものはたくさんある。
- ・現在、「家族」が成立しない状況もある。親子の在り方を見直すために、社会教育施設でも、家族単位で受け入れてみるのはどうだろうか。
→若い親を巻き込もうと、幼稚園や保育園のキャンプに親も同行してもらっている。活動中は、一緒に活動するものと、手は出さずじっと我が子を見守るものと、分けて行っている。さらに夜は、子育てカフェを実施。
- ・活動に参加した高校生の感想「仲間と本気で笑いあえることがこんなに楽しいとは思わなかった。」「できないからやらないではなく、まずやってみる！」などすばらしい。どんな活動から、

このような感想が出てきたのだろうか。

→アイスブレイクから、グループワークと仲間を意識する活動。そして、仲間がいないと解決できない活動。本気で取り組まないと解決できない活動を実践したからではないか。

- ・自分もジュニアリーダー研修会等を経験し、とてもその後の生活に役に立っている。施設を利用した青少年たちのその後どのような効果があったのか、追跡調査などは実施しているのか。

→全プログラムではないが、例えば「赤城やまなみチャレンジキャンプ」参加者は、調査している。

E-③ 「福島の子供たちが、福島のこと、自分のこと、社会のことを知り、改めて福島のことについて考え、自分の力で未来を切り開く力を育む」 ～福島こどもカプロジェクト「福島こども未来塾」～

- ・今後の計画は。

→スポーツワークショップ、雪中登山（山岳関係の方々との連携）、子どもの自主企画（何して遊ぶ）、親を巻き込んだ活動、学習発表会等。代表者が事後に県庁への表敬訪問を計画している。

- ・ニーズや9回のプログラムはどのようにしているのか。

→体験活動は様々な機関が計画している。同じ子どもが参加しており、参加する集団ができています。連携先から計画は決まっていた。順番は、子どもの実態により検討した。

- ・募集や年齢は。

→あらかじめ枠組み（小5～中2）を決めていた。60名の募集であったが、49名参加のうち、回によっては、スポーツ少年団や学校行事のため、不参加となった子どももいる。

- ・全体の予算はどれくらいか。

→年9回の事業で、1,500万円（ITプログラミングは、200万円）

- ・参加費や助成金は。

→1人5万円。（食費、保健や宿泊について、1,500万円から）

E-④ 「福島復興支援事業 なすかしドリームプロジェクトⅣ」 ～一人はみんなのために みんなは一人のために～

- ・調査「人の話をきちんと聞くことができる」のポイントが下がった理由は。

→まず、「自分はできる」と思っていた子も、14日の厳しい体験を通して、冷静に自己分析できるようになった。または、自己評価が厳しくなったのでは。「1人でキャンディー泊」の影響というより、その体験は、むしろ子どもたちにはプラスになっていると思う。

- ・雨天時用のプログラムは。

→特になし。雨天でもしっかりとした装備で、完全実施する方向である。（自然の厳しさを知ること大切！）

- ・予算は。

→140万＋参加費＝約200万

- ・勤務体制は。
 - 5人でフルに本プロジェクトの対応。その他の職員は、他の来館者対応。
- ・14泊の中で、子どもたちの意識が変化したのではないかと。継続して参加している子にどのような変化が見られるか。
 - やはり他の子より、積極的にチャレンジする姿が見られた。



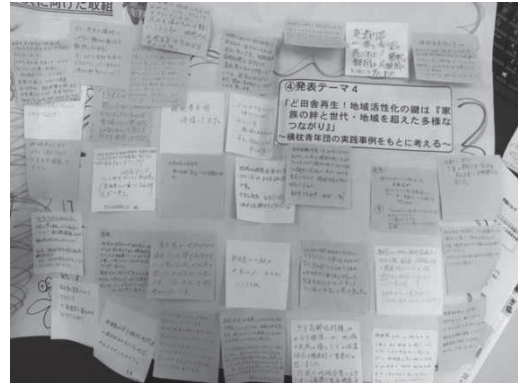
7 メッセージボード集約結果

会場A（学校・家庭・地域の連携）

① 「野友の山猿化計画（小規模校だって負けないぞ!）」

～地域と共に歩む学校づくりを目指して～

- ・公民館（コミセン）、社会教育施設、企業、農家等、たくさんつながる場はありそう。
- ・子どもが自分たちで、地域に声をかける、足を運ぶ、体を動かす、心も動く。そして、地域行事へ。



② 「夢に向かってチャレンジできる児童の育成」

～学校・家庭・地域パートナーシップ推進事業～

- ・学校の強み→地域の良さを生かしている。
- ・継続は力なり
- ・百聞は一見にしかず，百見は一試にしかず
- ・体験経験は人を育てる
- ・それぞれの授業，事業後の児童のふりかえりをし，もっと良いものにできるのではと，教員が考え続けたいといけな。
- ・人と人とのつながり
- ・地域の人材は，そもそもどのような人がいるのか？
- ・地域のニーズと学校のニーズ，そこが合うところ。それが必要？

会場B（指導者養成・研修）

① 「公民館・市民センター等における学習プログラム開発について」

～生涯学習調査・学習プログラム開発事業～

- ・公民館の新規受講生の掘り起こし方を教えてもらいたい。頑張っって新しいことを始めても，同じ人ばかりで悩んでます。
- ・マニュアル本作成時に，現場の者が携わっていないと他人事で終わってしまう。
- ・神奈川県では，職員が非常勤，ボランティアなど，短期で代わる場合が多い状況です。2～3年で代わる人のテキストになればと思います。

③ 「人はなぜ，仕事帰りに学ぶのか？ 学ぶだけじゃない！ まなびいカフェ」

- ・サークルスクエアトウを活用し，参加者を共有できるようにする。参加が減るデメリットも否めませんが。
- ・継続は大事！でも終わりもあっていい。そのモチベーションがメンバーに共通なのでは？
- ・開催地に変化をもたせても良いのではないのでしょうか？新たなメンバーも期待できる!?

会場C（地域課題の解決に向けた取組）

① 「街がないなら作ればよい！ 新しい挑戦が人を変える！」

- ・那珂市役所に「今あるもので観光面を発展させよう」とPRしたらいかがですか。市には、お金はあまり無いと思うので、「お金をください」というのは、拒否されるのだと思います。
← ありがとうございます。お金の要求は、一切しておりません。

② 「子どもを見守る地域の輪」～子育て応援事業「親の学習」講座～

- ・中高生が親になり、地域のことも考えるような年代になるころ市民全員が学ぶことにより、到達するのでは。
- ・市民会議と行政で理想とする親像（アウトカム）を協議するのも良いのではないのでしょうか。

④ 「ど田舎再生！地域活性化の鍵は『家族の絆と世代・地域を超えた多様なつながり』」

～横枕青年団の実践事例をもとに考える～

- ・横枕青年団の方々のがんばりが伝わってきました。地域活性のために、「出逢いのイベント」などもたくさん行い、移住してくれる人が増えるといいですね。これからはがんばってください。
- ・発表内容に夢と希望を感じました！横枕青年団の応援団に入りたいと思いました。
- ・那須烏山市の隣町の常陸大宮市出身です。現在は、つくば市に住んでおりますが、今の環境が良すぎて、地元に戻りたいとは思いません。やはり戻りたいと思わせてくれる何かが不足しているのだと思います。それこそが地域活性化の1番の課題ではないかと感じています。本日は、ありがとうございました。
- ・目標において、すぐに結果に出るもの、出せないものがあると思います。短期目標、長期目標を区別して、達成度を分かりやすくしていくと、団員のやりがい、また団の活性化につながっていくと思います。
- ・日本中で移住してもらうために、いろいろなことを行っています。実行を増やすのは難しいことですが、地域の人のやる気は大切だと思います。
- ・地元に戻ってくる要因として、「子育て」は大きな鍵になるのではないかと思います。今、地元で子育てしている人をターゲットにするほかに、子育てしようとしている若い夫婦に向けて、アピール活動ができれば、次の世代を増やす策になるのではないかと思います。何はともあれ、ほたるカフェ、ぜひ行ってみたいです。お疲れ様でした。
- ・もう一歩先の横枕にしかない魅力の発信を期待しています。また、イベント告知方法は、どのようにしていますか。（参加人数多かったので）
- ・本日は、ありがとうございました。いろんなイベントをやっていて、すばらしいなと思いました。SNSなどは活用しているのかを知りたいと思いました。facebookをやっているのですね。農家が減っているなどの問題が今ありますが、農業体験を開くなど、田舎暮らしをしたい若者向けの移住プロジェクトみたいなものをするのはどうでしょうか。（大変だとは思いますが・・・）
- ・行政の補助金はいずれ先細りになると思います。事業性を高めていく方向でお考えになって

はいかがでしょうか？

- ・ 139人の地区で、若い人がこれだけがんばっているのはすばらしい!! 地元じゃないからこそ見える良さを発見してください! 「ホタルの町」とか「どろりんピック」を続けていくとか、この町だからというアピールをしていくといいと思います。これからもがんばって～!
- ・ 横枕青年団頑張ってください!
- ・ 人口が少ないことは大変でしょうか、だからこそ顔と顔を見あわせていろいろと進めていける良さがあると思います。
- ・ 活動に関する予算の難しさと苦労を考える良い機会となりました。
- ・ 様々なイベントを行っていて、来場者が市の人口より多く来場することに対して、良い活動をしているのだなと思いました。
- ・ facebook を利用している人だけが見られるのではなく、もっと違うやり方でも伝えるということを考えてはどうですか?
- ・ 那須烏山市歴1年8か月とおっしゃっていましたが、その中でも横枕地区に入られたのは、どんな魅力があったのでしょうか。その魅力を前面に出したイベント運営をなさって、横枕地区のPRを頑張ってください。
- ・ 地域の特色を生かしたイベントがとてもよかったです。ホタルカフェ、どろりんピック、これからも続けてください。
- ・ 地域の売りは何か? なければつくることはできないのか?
- ・ 現在、ゆるキャラは地域活性化、全国的に認知してもらうための大きな武器になっている。その中で、ゆるキャラグランプリ286位は立派! もっと地元アピールに使えると思う。茨城県トップのみとちゃんよりも上だと思う。
- ・ 地域外の人ほど、いろいろ見えてくるので、ひるまず頑張ってください。
- ・ 私の住む地域も、少子高齢化、人口減少が著しく、賑わいが失われていて、今回横枕地区での活動のお話を聞くことにしました。イベントでの地域活性化を図ることはいいことだと思った。
- ・ 青年団が、ふれあい推進協議会とサポート隊、自治会、外部協力者と関係をもっていくことが鍵、誇りを持って地域づくりを行うことだと思います。イベントが多くて、楽しそうでした。(ホタル、花火、焼き芋、どろりんピック)
- ・ みんなが興味を持って行きたいとなるように、お祭りをやるだけでなく、広域に知らせ、他の地域から来てもらわないと、お金を落としていってもらうことはできないと思いました。
- ・ 那須烏山の魅力が多くの人に伝わるといいですね。
- ・ 青年団が地区のために協力している様子がすばらしいと感じました。ぜひ長く続けていただきたいと思います。焼き芋祭り参加したいです。
- ・ 地域の活性化や、地域のつながりを強くするために積極的にイベントを開催していて、子どもたちが楽しく過ごせているのではないかと思います。最近では、ほたるが見られる場も少ないと思うので、ほたる祭りを大きく前に出していければいいのではないかと思います。
- ・ 行政は、これらの事業について、どのように考えているのか? 事業の規模と集客数にもよる

が補助金以外の収入は全くないのか？

- ・自治会、推進協議会等と連携し、補助金の継続を。
- ・また、市内企業等にスポンサーになってもらえるよう働きかけては。
- ・横枕青年団は、ほたる祭りや花火大会など、様々なイベントを行っていることがわかりました。青年団の活動の結果、どのように横枕地区が変わったのかも知りたいと思いました。
- ・那須烏山市のゆるキャラが3体である理由を聞き、バラエティのある市長だと感じました。那須烏山市の市長のような方が、市長であれば地域活性化もできそうだと感じました。町おこし、がんばってください。
- ・少子高齢化問題は、かなり根深いが、地域の交流の場としての位置づけは魅力的で重要だと思いました。行政や地域企業との少しずつの連携で、資金調達も必要かと思います。または、ネットで出資者を募る方法もありますね。
- ・横枕地区は、規模の小さな地区であり、世帯数や人口が少なく、高齢化率が高い中、様々なイベントを開催していることは、とてもすばらしいものだと感じた。たくさんある魅力を地区外へアピール、周知させるために、焼き芋やホテルなど、同じような特色を持つ他自治体や他地区と連携していくことで、広報の範囲は広まるのではないかと思います。また、イベントでお金を落としてくれるような仕組みがあると資金面も多少は余裕が出るのではと感じました。
- ・どこにでもあるような活動が目立つように思います。地域独自のものを有効的に使うのが良いのではないのでしょうか。地域のブランド化、プロデュースに力を入れてみてはどうでしょうか。祭りの中で、資金が入る仕組みを作れば資金も集まります。
- ・那須烏山市や横枕地区の場所がわかるような地図があった方がよかったかと。
- ・資金面の苦労について、クラウド？で出資者を募るのはどうでしょうか？

会場D（ボランティア関係）

① 「生涯の学びにつながる学生の社会参画活動」

～ユニバーサルビーチでの活動報告（大洗サンビーチでの体験から学んだこと）～

- ・他地域では行わないのですか？（日立市や鹿嶋市など）
- ・活動を初めて知ったので、もっとPRを上手にやった方が良いのでは。

② 「私たちにできるボランティア活動」

～ 高校生から（15年間）の歩み～

- ・教えてください。藤田さんの考える、いや求めるボランティアとはいったい何ですか？
- ・活動メンバーの人数はどのくらいか？開始時と今。年齢層も教えてください。
- ・ボランティア活動を続ける中で難しかったことは？団体を立ち上げの際に難しかったことは？
- ・お話の仕方もうまく、要点を押さえていらしたので、とてもわかりやすく聞きやすかったです。
- ・NPOとボランティアとの関係については、どのように思いますか？

- ・実際に、ボランティア活動の具体的な内容を教えてほしいです。
- ・もう少しボランティア活動の内容を詳しく話をしてください。
- ・自分で一からつくりあげるといったことは難しいと思うのですが、それを高校生の頃から行っていて、すばらしいと思いました。
- ・声が大きくすごくわかりやすかった。
- ・ボランティアに触れるきっかけなど詳しく話してくださったので、後半の話もすんなり頭に入れることができました。
- ・写真や映像などがあればもっと分かりやすかったのではないかな。
- ・資金をかけずにボランティアをすることに対して、すごいと思いました。
- ・自分の経験、体験談を話すことができるということに良い印象を持ちました。
- ・ボランティア入門を話していただき、高校生を対象にもっと話す場を持って欲しい。
- ・千葉県生涯学習センターで、講座を開設しているので、体験談等を話していただく機会があればと思っております。
- ・自分の生き方を決めたボランティア活動、人格形成にまで高めたボランティア活動、意識を持って取り組んでいる姿に感銘を受けました。がんばってください。
- ・説明がすごくわかりやすかった。
- ・ボランティア活動での人格形成について、非常によい経験があると思う。これを次の世代へ伝えていって欲しい。あと声が大きかったのが良かった。
- ・これからどんな「ボランティア活動」「地域活動」をしていきたいと考えていますか。
- ・多くの人がボランティアに参加するにはどうしたらよいか。
- ・募集でボランティアに参加するのと、ボランティア団体に所属するのとでは何がどう変わってくるのですか？団体に所属することで、自分にとっての利点や欠点は何ですか？
- ・ボランティア団体に生活はしていけるのでしょうか？
- ・藤田さんに出会えて変わりました。
- ・自分のためにやっていることが進学や表彰につながっていったことは「欲」におぼれない素直なボランティア精神のたまものと思います。がんばってください。
- ・藤田さんの話から、大人への成長モデル（あこがれ）、自己肯定感を持てることの大切さを強く感じました。
- ・自分で企画したのがすごい！
- ・今までボランティアをやってみたいと思っていただけ、藤田さんの話をきいて、やれるように力づけられた。
- ・ボランティアに参加しようと思うときはあるが、自分で企画しようと思ったことはないの、高校生で企画したというのはすごいなと思いました。
- ・今まで多くのボランティア活動をしてきたと思いますが、1番印象に残っている活動はありますか？
- ・以前からボランティア活動に参加してみたいと思いつつ、行動に移せないでいたが、今日、藤田さんのお話を聞いて、ボランティアをしてみたいという気持ちが強くなりました。ボランティアをするという活動だけでもすばらしいのに、高校生の時に自分で企画したとおっし

やっていてすごいなと感じました。まずは、自分のできる範囲で自分にできる活動をしていきたいと感じました。

- ・きっかけとして、モチベーション等のためには表彰はあっても良い。本当は、「ありがとう」の一言で十分なんですけど。どうですか？
- ・現在、手弁当で災害ボランティアに行かれているということですが、資金面や自分の生活は維持できているのでしょうか？少々心配です。
- ・小学生のときのキャンプで、今の藤田さんになるためには、どういう人が1番影響あったのですか？今後ボラするにあたって、緊張します。人に影響を与える人になりたいです。
- ・今の藤田さんという人間ができあがるまでの経過がわかったこと。(自己肯定感が欲しい私！)
- ・講演するときに、肘をついて話すのは印象を悪くするから気をつけてね。

会場E（青少年教育）

② 「国立青少年教育施設の役割

～いま、交流の家で何が起きているか～

- ・同じ国立の施設として、職員がもっと施設の外に出向き、施設の情報を広く発信することが大切だと感じました。
- ・職員体制、スタッフについて知りたい。20年前は、校長先生みたいな人が指導していて、非常に使いにくかったし、社教にそぐわなかった。今では、イメージも施設も変わっていますが。
- ・ありがとうございました。学校現場にいて感じることは、「相手」意識がないことです。だから、挨拶も形だけ、心がこもらない。実感したことです。

③ 「福島の子供たちが、福島のこと、自分のこと、社会のことを知り、改めて福島のことについて考え、自分の力で未来を切り開く力を育む」

～福島こどもカプロジェクト「福島こども未来塾」～

- ・こども未来塾で、見られた子どもたちの変化、輝きを学校にもぜひ伝えて効果的な交流をつくってほしい。
- ・福島、東北、日本の未来を支える人材の育成という視点ですばらしい取り組みでした。

④ 「福島復興支援事業 なすかしドリームプロジェクトⅣ」

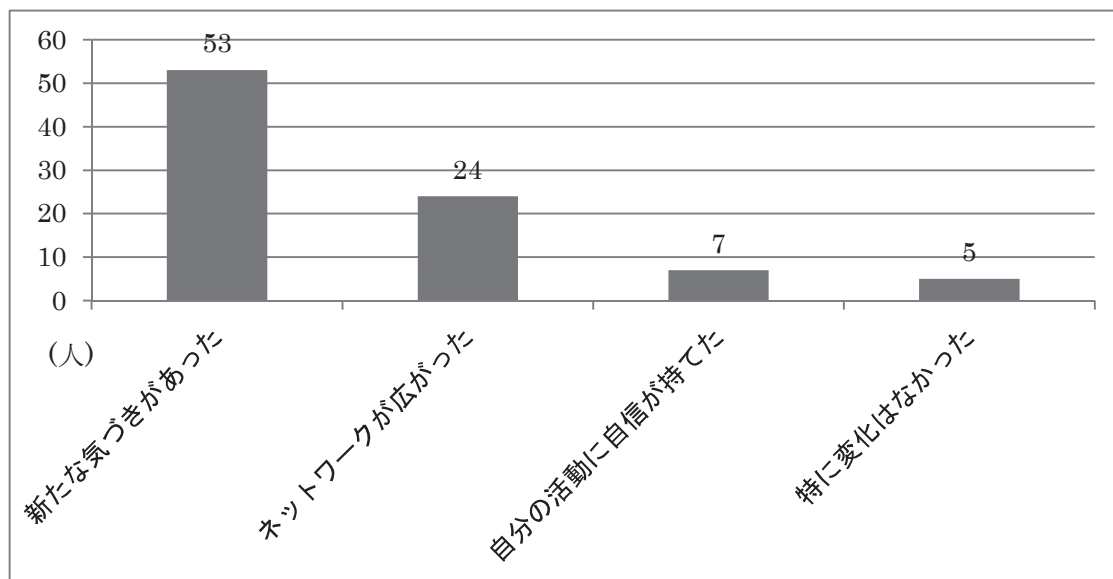
～一人はみんなのために みんなは一人のために～

- ・人生は、坂道の法則です。苦しいこともあれば、楽しいこともあります。なすかしドリームプロジェクトは、最後まで何事にもあきらめない子どもたちをつくっていると感じました。朝日岳山頂での子どもたちの表情が物語っています。
- ・自分の学校の児童が参加をさせてもらいました。人としてという部分、自分他人との関わり見つめる目、まさに生きる力が成長しました。

8 追跡調査集約結果

追跡調査回答数 70（うち大学生41）

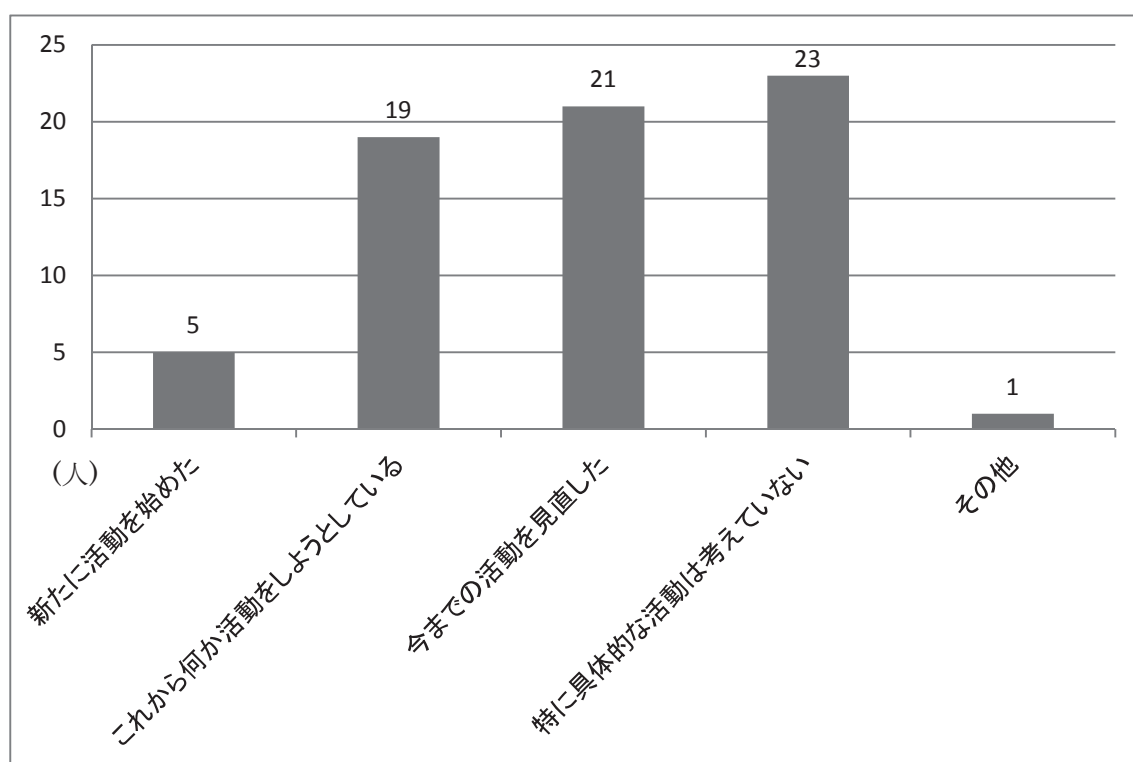
① この大会参加をきっかけにあなた自身にどんな変化がありましたか。



<主な意見>

- ・事例発表や交流会を通して、発表者や参加者と顔見知りになることができ、その後メールでのやりとりをした。
- ・事例発表の中で、今後の事業計画に生かせる取り組みが見られた。
- ・青少年教育施設との連携のあり方について改めて考えることができた。
- ・行政の方々の視点を知ることができた。今後、学校との連携も考えているので、参考にしたいと考えている。
- ・他県の情報を知るとともに、他県の方とのネットワークが広がった。
- ・外部資源（人的・物的）をどんどん取り入れることで、自己満足に陥らないことが大切である。
- ・社会教育にまだ携わったばかりなので、初めて知ることが多かった。また、自身が担当している事業について発表させてもらうことで、自分なりに事業の大切さを再確認することができた。
- ・グループ協議にて、様々な意見をいただいて、自分の取り組みを再認識するとともに、運営について見直すきっかけとなった。
- ・いろんな世代や企業の方と詳しく話せたのがすごく良かったです。でも、自分の知識がそこまで深くないので、少し恥ずかしい気持ちもありました。もし、次もあるならもう少し知識を深めて参加したいです。

② 具体的な活動についてはどうですか。



※「特に具体的な活動は考えていない」回答者23名のうち18名は学生からの回答である。

<主な意見>

- ・他県の取り組みを知り、現状の取り組みを見直していけば実践できると感じた。
- ・交流会で、事例発表した方々に研修会で講師を依頼したいと考えている。
- ・他県の状況について、自分の県の担当者に報告し、できる手立てがないか検討を依頼した。
- ・対象者を絞った企画の検討や、情報発信の工夫など、来年度事業にて、見直していきたいと考えている。
- ・教育課程編成の時期になり、家庭や地域の教育力の活用をさらに実効あるものにするために、学校評価（子ども、保護者）や教職員の反省を踏まえていく。
- ・総合学習の単元構成や各教科の体験活動の時期を見直す予定である。
- ・現状では、具体的な活動は予定していませんが、産学官連携事業に取り組んでいきたいと考えている。
- ・次年度から、児童クラブにプログラムを導入していきたい。
- ・次年度から、市総合防災訓練のメイン会場を引き受け、避難所開設に向けた組織づくりを始めた。
- ・今後の地域連携についての案をつくり活動を始める。
- ・行政間や幼保小中学校と児童クラブ、子育て支援センター、適応指導教室の連携を図れるような合同での研修会を行った。

③ 参加大学生からの意見

- ・ 大人と話し合うのは初めてで緊張した。大人と話し合うことで自分の言いたいことがうまくまとめられ、相手にちゃんと伝えることができた。また、課題について話し合ったとき、このような問題があるのではないかと。ではこうした方がいいのではないかと、ただ話し合うだけでなく、問題を見つけ、その問題に対する解決策を考えるのがとても楽しかった。自分が考えた案も解決策のうちのひとつとしてあげられたときはすごくうれしく思った。協議結果を発表する時間は、話し合った大人たちに背中を押されて私が発表した。発表したとき、とても緊張したが、話し合った結果をうまく発表者に伝えることができてうれしかった。
- ・ 今までこのような学習機会に参加したことはなく、堅苦しくてつまらないものだと思いに思いつ込んでいた。しかし、思っていたほど堅苦しいものではなく、意見と笑いが飛び交う和やかで楽しいものだった。様々な考えと主張に触れ、ひとつの課題を皆で協力して解決することが、こんなにも難しく楽しいことだとは思わなかった。
- ・ 参加して感じたことは、どの発表でも誰もが熱心に聞き入っており、意見交換の際も制限時間になるまで会話が途絶えなかったことだ。
- ・ 普段我々が大学で受けている講義とは、ただ先生が情報を発信するだけだが、それとはまるで違い、話し手がただ情報を発信するだけでなく、プレゼンを聞いた一人ひとりが意見を出し合い、発表の良い点や問題点などを話し合い、その解決にはどうすればいいか皆で意見を交換し合った。いつもとはまるで違う学習法を目の当たりにし、かなり新鮮な経験だった。
- ・ どのテーマも教育関係者だけでなく、学生の視点から吟味していくことも重要だと感じたので少しでも学生の参加を呼びかけてほしいと思った。
- ・ 日常出会うことのない職業、世代の人々と交流することができ、自分が高尚な人になれたのではと思ってしまうような体験でした。グループワークでは発信する際に自分の敬語が正しいのか不安になったりもしました。学校の外に出なくてはならないと強く感じました。
- ・ 事例発表に参加して、茨城には規模は小さいけれどもこれだけ三者一体となって子どもを育てる学校があるという事実感到非常に感動したし、この学校に通っている生徒たちは幸せだなと感じた。普段、あまり人と話す機会がない私にとって、自分とは違う価値観を持っている人たちと話せるということは非常に自分にとって財産だと思うし、違う価値観の人の話を聞くことで、自分の中に新しい知識を取り入れることができた。
- ・ 大会に参加してみて、様々な社会教育現場に携わっている方々と交流することができたのが大きな収穫だった。生涯学習に対する考えは人によって様々であり、何が正解であるかが決まりきったものではない。ひとつの課題に対する解決策は多様である。これこそ生涯学習、社会教育において重要な要素のひとつであると教えられた。
- ・ 今まで、私はイベントに参加する側だったが、イベントを開催する側が参加者を集めるために様々な工夫を行っているということを改めて考えさせられた。また、今後イベントなどに参加するときは、開催している側がどのような工夫をし、どのようなイベントを行っているのか、という点に着目してみるのもおもしろいかもしれないと思った。この全体会では、社会人の人たち、また自治体などが抱える様々な課題を知ることができたとし、人見知りの私にとってはとても貴重な体験であった。

- ・子どもたちが学ぶように、大人たちも学んでいるのだと改めて考えさせられた。学ぶという言葉は、どこか学校というイメージが強いですが、実際はそうではなく、生きているかぎりいろんな学びになるんだと感じた。
- ・ファシリテーターについて、もう少し学んでみたいと思った。
- ・教育とは、教育する立場の教師と、教育を受ける立場の生徒がいて成り立つものである。故に、教育について成果や課題を発表し、意見を出し合う今回のような企画には、生徒も出席すべきと感じた。教育する立場だから気づける視点と、教育を受ける立場だからこそ気づける視点がある。その両者が意見を交換することで、よりよい教育が生まれるだろう。
- ・一番印象に残っていることは、終わった後に必ず名刺交換をしていたところだ。やはり人脈はとても大切なものなのだろうと感じた。
- ・今回の交流会では、発表された事例についてグループ協議を行い、課題解決への案を出し合った。プロの教育関係者と同じ目線で話し合うという貴重な体験をすることができ、とても勉強になった。また、他のグループでは、私たちとはまた違った解決案が出されており、こういった課題解決には多人数での協議が効果的であるということを感じた。教育者の立場から話される今回の交流会の発表は、今まで聞く機会がなかった内容のものばかりであり、非常に新鮮かつ参考になった。



9 成果と課題

＜成果＞

- ・ 関東近県における生涯学習・社会教育関係者等の広域ネットワーク構築のきっかけとなった。
特に、参加者については、社会教育行政関係者だけでなく、首長部局関係職員、NPO、企業、民間教育事業者、大学関係者（大学生を含む）、学校関係者等、地域の課題解決に関心がある方々に幅広く参加していただけたことは、均一のネットワークでなく、幅広いネットワーク構築につながった。
- ・ 大学生の参加者も多く、積極的に協議にも参加していた。
- ・ 参加者においては、各地域で実践されている先進事例を学ぶことで、参加者が関係している地域課題解決の手段として参考にすることができた。
- ・ 他県や他団体の実践内容を知ることができる貴重な機会となった。
- ・ 事例をもとにした支援スキル研修により、地域力活性化に具体的に活用できるスキルや、実際に活用する方策についても学ぶことができ、参加者の資質向上に役立った。
- ・ 事例発表の内容もすばらしいものが多く、事例数も多かったことがよかった。時間の問題よりも、発表数を多くしたことがよかった。
- ・ 事例発表後に、小グループでの協議があったので、全体協議で活発に意見交換ができた。
- ・ 発表者については、自分たちの活動を広く理解していただけたとともに、参加者の意見を通して、課題解決の手がかりをいただけたことがよかった。
- ・ 発表者については、発表資料作成を通して、これまでの取り組みをふりかえり、成果や課題について改めて整理することができた。
- ・ 中国・四国・九州地区交流会に長く関わっていらっしゃる三浦先生の講演会では、先生のエネルギーギッシュな講演に、社会教育にかける情熱をいただき、第1回目の講演として適任であった。

＜課題＞

- ・ 事例発表の時間と協議の時間、事例発表数については、どこに重点をおいて実施するか、今後さらに議論が必要である。
- ・ 事例発表の休憩時間の取り方等を工夫し、協議での消化不良な部分については、メッセージボードに記入してもらう時間を確保するなどの工夫が必要である。
- ・ 事例発表の資料について、自分で参加していない事例発表の資料についても欲しいという要望が多かったので、どのように対応できるか検討が必要である。
- ・ 茨城県内の参加者が多かったので、さらに他県からの参加者を増やす努力が必要である。
- ・ 学校教育関係者にもさらに多く参加していただけると、学校教育と社会教育の連携が推進できるのではないか。そのための方策を検討していく必要がある。
- ・ 大学生の意見からは、「スーツの参加者が多く、私服の大学生が参加するのは場違いではと思わせるような雰囲気でも不安だった。しかし、話しているうちに、気さくな方が多く、自分たちの意見も快く聞いていただいたのでうれしかった。」という意見があった。学生を含め、様々な方々が参加しやすい環境をつくっていくことが必要である。

参 考 資 料

「学びによる地域力活性化プログラム普及・啓発事業」 ～学びを通じた地方創生コンファレンスの創設～

(新 規)

27年度予算額 36百万円

第2期教育振興基本計画で示された教育再生に向けた基本的方向性である「絆づくりと活力あるコミュニティの形成」の実現に向け、地域力の活性化のために公民館等地域の「学びの場」を拠点として実施される地域課題解決の取組の促進、支援を行う。具体的には、これまでに「公民館等支援プログラム」(※)やその他地域力の活性化に資する取組において蓄積された様々な課題解決のノウハウ、プロセス等の成果を活用し、各地域が共有する課題・問題の解決に向けて協議を行う「学びを通じた地方創生コンファレンス」の開催等により、地域力活性化の取組の全国的な普及・啓発等を行う。

(※公民館等支援プログラム＝平成25・26年度実施「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」)

I. 地域力活性化支援委員会の設置

- ・各ブロックでの学びを通じた地方創生コンファレンス開催にあたり、実施内容、詳細な企画の検討。
- ・コンファレンスへのアドバイザー支援。
- ・「公民館等支援プログラム」の成果であるノウハウ・プロセスの検証・評価を実施し、有効活用に向けた類型化等を実施。
- ・地域力活性化に資する全国の取組事例の調査・分析を実施し、その内容の普及・啓発を実施。

コンファレンス企画審査等：8百万円

II. 学びを通じた地方創生コンファレンスの開催

- ・全国7ブロックにおいて、都道府県、市町村、NPO、民間企業等の社会教育関係者が集まり、地域力活性化に向けた関係者間の効果的マッチングやネットワークを構築しつつ、課題の共有、解決のための協議を実施。
- ・「公民館等支援プログラム」を実施した自治体や、自主事業として先進的な地域課題解決の取組を実施する自治体やNPO等がテーマを持ち寄り、事例の検証・共有、研究協議を実施。
- ・協議内容、成果を広く全国へ提供し、地域力の活性化を図る。

全国7ブロック×4百万円、その他経費：2百万円

ブロック・コンファレンスの実施内容

- ・各地域が抱える個別課題解決のため、全国の先進的事例や、実際に地域で活躍する関係者とともに、研究協議を実施。
- ・都道府県・市町村がコンファレンス実施を国から受託。または、都道府県等、大学、企業、関係団体によるコンソーシアムなどが受託。
- ・国は、コンファレンス実施に要する会議費等の所要経費を委託。
- ・各地域で既に実施している研修等と一体的に実施するなどの方式も可能。

(地域力活性化に資する取組事例)



若者の居場所づくり「喫茶わいがら」
(東京都国立市)

「特産品のびわわ」による地域振興(びわわ種石けん等の開発)(高知県南国市)



地域づくり組織が運営する公民館での一斉防災訓練(三重県名張市)

コンファレンス (Conference)

一会議、協議会の意。
関係者間で共有する問題について協議すること。



平成27年度学びを通して地方創生コンファレンス実施予定

No.	団体等名	事業名	事業概要	開催日時、開催地(いずれも予定)	問合せ先等	募集予定人数
1	北海道地方創生コンファレンス実行委員会	学びによる地域力活性化プログラム普及・啓発事業	「地方再生(地域振興)」、「防災教育」をテーマに、道内計5地区で実施(うち札幌地区は成果のとりまとめ)し、「人と人をつなげ、地域課題を解決する社会教育」の実践について、さらなる普及・啓発を図る。	①釧路・根室地区 8月31日(月)別海町(※終了しました) ②オホーツク地区 10月30日(金)北見市 ③胆振・日高地区 11月11日(水)安平町 ④上川地区 11月27日(金)富良野市 ⑤札幌地区 1月21日(木)札幌市	別海町中央公民館 電話:0153-75-2146 北見市中央公民館 電話:0157-23-6268 安平町追分公民館 電話:0145-31-4579 富良野市中央公民館 電話:0167-39-2318 北海道公民館協会 事務局 電話:011-271-2825	50名 50名 50名 50名 100名
2	学校法人東北芸術工科大学	地域社会を担う若い人材を育成する社会教育の可能性研究事業	東北各県の若い世代の人材流出への危機の下、地域の担い手となる若手の人材の育成及び戻ってきた若者の受入れがテーマに、高校生の地域づくりや新たな社会教育(公民館)の可能性について研究討議等を行う。	11月20日(金)～22日(日)、東北芸術工科大学(山形市)	http://www.tuad.ac.jp/2015/09/51074/	300名
3	東北大学災害科学国際研究所	地域内の連携・交流・学びを通じた震災学習の協働事業体制づくり	石巻市を会場に、自治体などで行われる様々な震災学習に関する成果やノウハウを共有するため、各団体等の紹介、対話型ワークショップ、担当者の支援スキルの習得を行う。	第1回 12月20日(日)、第2回 1月10日(日)、いずれも宮城県石巻市	①東北大学災害科学国際研究所 佐藤翔輔 電話:022-752-2099 E-mail:ssato@irides.tohoku.ac.jp ②みらいサポート石巻 電話:0225-98-3691 E-mail:ganbappe@gmail.com	第1回:100名 第2回:30名
4	関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会実行委員会	関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会	茨城県が中心となり、関東近県の生涯学習・社会教育関係者が一同に会し、広域ネットワーク構築を図るとともに、最新の支援スキル(ファシリテーション、対話、ネットワーキング等)の習得を目指す。	11月7日(土)、8日(日)、茨城県水戸市(茨城大学)	・「茨城県教育委員会HP」参加者募集について http://www.edupref.ibarakijp/board/topics/info/bosyu/h27/0930/0930.html ・関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会facebookページ https://www.facebook.com/kankenko27	約200名
5	地域力活性化コンファレンスinひょうご実行委員会	地域力活性化コンファレンスinひょうご	近畿地区等の取組事例を社会教育関係者に広く提供し、普及を図るとともに、参加型による社会教育支援者のための資質向上研修のモデルを示し、参加者のスキルアップを図る。	11月25日(水)、26日(木)、兵庫県神戸市(神戸ポートピアホテル)	兵庫県教育委員会事務局社会教育課 電話:078-362-3782 FAX:078-362-3927 E-mail:syakaikauiouka@pref.hyogo.lg.jp http://www.hyogo-c.ed.jp/~shabun-bo/	150名
6	地域力醸成コンファレンス実行委員会inしまね	地域力醸成コンファレンスinしまね	持続可能な地域づくりに自主的・自立的に取り組む人づくりを進めるため、先進事例の分析・実践者との徹底的な協議等を行う。また、コンファレンス当日だけでなく、参加者に対して社会教育主事が事前(課題意識の醸成)・事後(学びを実践に結びつける)の支援を行う。	11月26日(木)、27日(金)、島根県出雲市(島根県立青少年の家)	島根県教育庁社会教育課 電話:0852-22-6876 E-mail:omori-shinichi@edu.pref.shimane.jp HP: http://www.pref.shimane.lg.jp/shakaikyoku/	200名
7	学びによる地域力活性化コンファレンスin愛媛実行委員会	学びによる地域力活性化コンファレンスin愛媛	全国の先進的な事例を採用した対話の場を設定し、参加者達自身の活動を身につけ直すとともに、真の人的ネットワークを構築する。また、ファシリテーション研修を行い、人材の掘り起こし、育成に寄与する。	12月5日(土)、6日(日)、愛媛県大洲市(国立大洲青少年の家)	えひめ子どもチャレンジ支援機構 事務局長 仙波英徳 E-mail:kouma@d.dion.ne.jp http://kochall.org/	300名
8	国立大学法人大分大学	コンファレンスを契機とした取り組みを高めるサイクルのバリエーション地域における仕組み・システム開発と人的ネットワークの形成・機能高度化を目指して	「地域の仕組み」と「人的ネットワーク」の2分科会によるコンファレンスでの事例発表を踏まえた協議で出た課題について、大分大学が中心となり、事例発表団体を支援し、その効果を検証する。	11月13日(金)、大分県別府市(大分県立社会教育総合センター) ※2月にも成果報告会を開催	担当部署:高等教育開発センター 電話:097-554-7647(担当教員直通) 097-554-8522(事務担当) E-mail:hcenter@oita-u.ac.jp	60名
9	鹿児島大学	産学官民による地域課題の協働的解決を促す学習交流プラットフォームの形成	「コミュニティ協議会と公民館」、福祉と産業分野から事例を取り上げ、社会教育と官長部局の協働とその意義等を共有するとともに、ファシリテーション研修により、社会教育行政職員等が任務に必要な知識やスキルを獲得することを目指す。	2月6日(土)、7日(日)、8日(月)、鹿児島県鹿児島市(鹿児島大学、もしくは、鹿児島県立青少年研修センター)	鹿児島大学研究国際部社会連携課地域連携係 電話 099-285-7104 FAX 099-285-8495 E-mail:tirenkei@kuas.kagoshima-u.ac.jp	200名
	文部科学省	全国コンファレンス(仮)	学びを通じて地域課題解決やまちづくりの取組を促進するため、関係者の学びと対話、ネットワークづくりの場として実施した、各地域のコンファレンスで得られた成果を取りまとめ、全国の関係者へ共有・フィードバックを行うとともに、多様な立場の参加者により討議を行い、各地域における課題解決のための取組の充実を図る。	■開催日:2月17日(水)～18日(木) ■場所:東京都渋谷区(国立オリンピック記念青少年総合センター)	文部科学省生涯学習政策局社会教育課 電話:03-6734-2974 E-mail:syakai@mext.go.jp	200名

FAX 送信先【茨城県教育庁総務企画部生涯学習課振興担当宛】 029-301-5339

関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会第1回大会【参加申込書】

※ 個人情報情報は、本大会に関すること以外の目的では使用いたしません。また、当日の様子(写真、動画等)につきましては、ホームページ(SNSを含む)や報告書等で使用することをご了承ください。

ふりがな		氏 名		性 別	
				男 ・ 女	
所 属		役 職			
電 話：					
電子メール：					
大会の出欠等 ※ 希望する事項に○をつけてください。					
第1日目 11月7日(土)		学生協の利用(昼食)		希望あり ・ 希望なし	
		参加 ・ 不参加			
※ 大学周辺には、飲食店等が少ないので、ご承知ください。		事例発表表	①14:00~14:45 会場A	B	C D E
			②14:55~15:40 会場A	B	C D E
第2日目 11月8日(日)			③15:50~16:35 会場A	B	C D E
			④16:45~17:30 会場A	B	C D E
情報交換会 ※ 情報交換会は、会費制です。【会費：3,000円】		参加 ・ 不参加			
支援スキル研修		初級 ・ 中級以上			

※ 支援スキル研修については、「ファシリテーションスキル」等について学ぶ予定です。

※ チラシ等のブラスアウトを希望する団体については、個別にご連絡ください。

※ 宿泊については、個人で予約していただくか、事務局に10/10(土)までお問い合わせください。

(担当：長谷川 090-4715-0472 hasegawa.kaoru@mail.ibk.ed.jp)

会場案内

申込方法

- 申込締切 平成27年10月23日(金)
- 参加方法 参加申込書を送付してください。(メール・FAX)
- 申込み・問合せ先

茨城県教育庁総務企画部生涯学習課振興担当

〒310-8588 水戸市荻原町978番6

T E L 029-301-5318

F A X 029-301-5339

電子メール shogaku@pref.ibaraki.lg.jp

茨城大学水戸キャンパス (〒310-8512)

JR 水戸駅(北口)バスターミナル7番乗り場から茨城交通バス

「茨大行き(柴町経由)」に乗り、「茨大前」で下車。(バス乗車時間

は約30分) ※できるだけ公共交通機関を御利用ください。



平成27年度 文部科学省「学びによる地域力活性化プログラム普及・啓発事業」

第1回

関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会

大会テーマ：県域を越えて「学びによる地域づくり」の輪を広げよう！

日時：平成27年11月7日(土)～8日(日)

○会場：茨城大学〒310-8512

茨城県水戸市文京2-1-1

○参加費：無 料 (第1回記念大会のため)



11月8日(日)の特別講演の講師は、
三浦清一郎先生です！

○対象者：学びを通じた地域の課題解決に関心がある方

(大学生・大学関係者、自治会、民間教育事業者、NPO、
企業、教員・学校教育関係者、社会教育行政関係者等)

大会の最新情報はfacebook ページで！



関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会

主催 茨城県教育委員会 茨城大学社会連携センター

主管 茨城県生涯学習・社会教育研究会

後援 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会実行委員会

福島県教育委員会 栃木県教育委員会 群馬県教育委員会

埼玉県教育委員会 千葉県教育委員会 神奈川県教育委員会

国立青少年教育振興機構

茨城県社会教育委員連絡協議会 茨城県公民館連絡協議会

協力 国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター

県境を越えて「学びによる地域づくり」の輪を広げよう
～「関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会」へのお誘い～

関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会実行委員長
茨城大学名誉教授 菊池 龍三郎



戦後日本の地域復興を担ったリーダーたちには、公民館での学習～社会教育～から生まれました。今、少子高齢化・過疎化が深刻になり、多くの地方自治体が消滅するとの予測が地域を不安にしています。しかし、その不安を振り払えるのは、学びを通して地域を元気にし、そこで生まれた絆を次の世代に確実に引き継ぐ社会教育・生涯学習の方です。

このたび、「学びを通しての地域活性化」の面で成果をあげている各県の実践を発表し、話し合いを通して経験・知識・技術を学び合う「関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会」を開催し、関東圏域での地域づくりに関わる実践研究交流の場づくりを目指します。

ぜひ、各県の多くのみなさんご参加と交流とエンパワーを期待しております。

第1日目
11/7(土)

開会式 13:00～ (茨城大学 教育学部教室)

事例発表 14:00～

(教育学部各教室)

【学校・家庭・地域の連携】 ※ 発表テーマ、発表者等については、変更になる場合があります。

	発表テーマ	発表者
会場 A	① 「野友の山猿化計画 (小規模校だって負けないぞ!)」 ～地域と共に歩む学校づくりを目指して～	茨城 鉾田市立野友小学校 校長 長谷川 馨
	② 「夢に向かってチャレンジできる児童の育成」 ～学校・家庭・地域パートナーシップ推進事業～	福島 いわき市立勿来第三小学校 校長 渡邊 康一
	③ 「悩みを抱える青少年に対する支援」 ～G-SKY Plan 事業について～	群馬 群馬県青少年会館 館長 竹内 利文 専門員 都丸喜久雄
	④ 「大宴っ子まつり、ふれあい体験学習ってなあに？」 ～地域活動を広報する取り組み～	千葉 松戸市立六栗中学校 教頭 齋藤 信 講師 佐藤 崇

【指導者養成・研修】

	発表テーマ	発表者
会場 B	① 「公民館・市民センター等における学習プログラム開発について」 ～生涯学習調査・学習プログラム開発事業～	茨城 戸戸生涯学習センター企画振興課 社会教育主事 寺門 義典
	② 「地域連携教員活動支援事業について」	栃木 栃木県教育委員会事務局生涯学習課 生涯学習振興担当課長補佐 湯澤美佐江
	③ 「人はなぜ、仕事帰りに学ぶのか？」 学ぶだけじゃない! まなびいカフェ	埼玉 まなびいカフェ 代表 菊池 万里子 幹事 猪野塚 容子
	④ 「I want you! 地域は学校の応援団」 ～東葛地区学校支援地域本部事業～	千葉 千葉県教育庁東葛教育事務所 社会教育主事 赤澤 敏樹

【地域課題の解決に向けた取組】

	発表テーマ	発表者
会場 C	① 「街がないなら作れよ! 新しい挑戦が人を変える!」	茨城 カミスカプロジェクト 代表理事 菊池 一俊
	② 「子どもを見守る地域の輪」 ～子育て応援事業「親の学習」講座～	埼玉 三郷市教育委員会生涯学習部青少年課 社会教育主事 石井 麻恵
	③ 「未来のツクリテを育てるコサイエの取り組み」	群馬 UDS 株式会社 代表取締役 中川 敬文
	④ 「ド田舎再生! 地域活性化の鍵は『家族の絆と世代・地域を超えた多様なつながり!』～横浜青年団の実践事例をもとに考える～	栃木 那須烏山市 横浜青年団 曾根駿介

【ボランティア関係】

	発表テーマ	発表者
会場 D	① 「大学生による地域への取り組みと挑戦」	茨城 茨城大学社会連携センター 学生地域参画プロジェクト
	② 「私たちにできるボランティア活動」 ～高校生から(15年間)の歩み～	栃木 ボランティア団体スノーラビット 代表 藤田幸秀
	③ 「民間ボランティアが行う通学合宿」	千葉 さふさ委員会 事務局長 椎名勲 委員 土屋沙織
	④ 「ボランティアアクションの新しい「カタチ」」 ～豊島区みらい館大明の事例をもとに～	東京 豊島区教育委員会事務局教育部庶務課 社会教育主事 岡田 麻矢

【青少年教育】

	発表テーマ	発表者
会場 E	① 「感動・夢体験 in のびのび夢スクール」 ～遠心指導教室との連携を通して～	茨城 茨城県中央青年の家 社会教育主事 櫻井 至
	② 「国立青少年教育施設の役割」 ～いま、交流の家で何が起きているか～	群馬 国立赤城青少年交流の家 所長 杉浦裕之 企画指導専門職 根本純一
	③ 「福島の子供たちが、福島のこと、自分のことを知り、改めて福島のことについて考え、自分の力で未来を切り開く力を育む」 ～福島子どもカプロジェクト「福島子ども未来塾」～	福島 国立磐梯青少年交流の家 事業推進室長 室井修一
	④ 「福島復興支援事業 なすかしドリームプロジェクトⅣ」 ～一人はみんなのために みんなは一人のために～	福島 国立那須甲子青少年自然の家 企画指導専門職 安部大助 吉田淳也

情報交換会&第1回大会交流会 18:00～ (茨城大学生協食堂)

第2日目
11/8(日)

屋食等については、第1日目は、学生協がオープンしておりますので、御利用ください。(11:00～13:30)

時間	内容	会場
9:00～10:00	学びを通じた地域課題解決のための支援スキル・ノウハウについての研修 (レベルに応じ2会場で実施予定)	教育学部教室
10:10～10:45	全体会(関係者間での出会いと対話) 参加地域ごとに、課題解決に向けた今後の行動について協議します。	教育学部教室
11:00～12:30	特別講演 『社会教育不要論への挑戦 ～学習から教育への再修正こそ立国の条件～』 月刊生涯学習通信「風の便り」発行人/編集長 三浦清一郎 先生	教育学部教室

閉会式 12:30～ (茨城大学 教育学部教室)

※ 日程や会場(教室等)については、当日変更になることもございますので、ご了承ください。

先進教育の事例紹介

水戸教員や学生が交流会

学びを通しての地域活性化策を考える「関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会」が7日、水戸市文京2丁目の茨城大で開幕した。初日は教育関係者ら約250人が集い、青少年教育などの先進事例を学んだ。

同研究交流会は、各地域で生涯学習・社会教育に携わる教員や学生、NPO職員らのス

キルアップ、ノウハウ習得を狙いに、県教委と茨城大、県生涯学習・社会教育研究会が初めて開催した。

開会式後、学校・家庭・地域の連携▽指導者養成・研修▽地域課題の解決に向けた取り組み▽ボランティア▽青少年教育の五つのテーマに分かれ、各地域の先進事例が発表された。

青少年教育の分科会では、県立中央青年の家(土浦市)の桜井至社会教育主事が不登校がちな児童・生徒が通う適応指導教室との連携事業を紹介。宿泊学習やサツマイモ収穫のイベントの中に、オリジナルの名刺交換の場を設けて「つながる」大切さを感じ取ってもらったり、一人一人が体験する場をつくって

達成感を味わってもらっている内容を説明した。その後、参加者同士で意見を交換し課題を探った。

最終日は8日、月刊生涯学習通信「風の便り」発行人の三浦清一郎さんの講演などが予定されている。

(小池忠臣)



先進事例などを学んだ「関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会」＝水戸市文京2丁目の茨城大

第1回大会 事例発表者一覧

テーマ	発表テーマ	都県	発表者
学校・家庭・地域の連携 (会場A)	①「野友の山猿化計画(小規模校だって負けないぞ!)」 ～地域と共に歩む学校づくりを目指して～	茨城	鉾田市立野友小学校 校長 長谷川 馨
	②「夢に向かってチャレンジできる児童の育成」 ～学校・家庭・地域パートナーシップ推進事業～	福島	いわき市立勿来第三小学校 校長 渡邊 康一
	③「悩みを抱える青少年に対する支援」 ～G-SKY Plan 事業について～	群馬	群馬県青少年会館 館長 竹内 利文 専門員 都丸喜久雄
	④「六実つ子まつり, ふれあい体験学習ってなあに?」 ～地域活動を広報する取り組み～	千葉	松戸市立六実中学校 教頭 齋藤 信 講師 佐藤 崇
指導者養成・研修 (会場B)	①「公民館・市民センター等における学習プログラム開発について」 ～生涯学習調査・学習プログラム開発事業～	茨城	水戸生涯学習センター企画振興課 社会教育主事 寺門 義典
	②「地域連携教員活動支援事業について」	栃木	栃木県教育委員会事務局生涯学習課 生涯学習振興担当課長補佐 湯澤 美佐江
	③「人はなぜ, 仕事帰りに学ぶのか? 学ぶだけじゃない! まなびいカフェ」	埼玉	まなびいカフェ(生涯学習政策研究会さいたま) 代表 菊地 万里子 幹事 猪野塚 容子
	④「I want you! 地域は学校の応援団」 ～東葛地区学校支援地域本部事業～	千葉	千葉県教育庁東葛飾教育事務所 社会教育主事 赤澤 敏樹
地域課題の解決に向けた取組 (会場C)	①「街がないなら作ればよい! 新しい挑戦が人を変える!」	茨城	カミスガプロジェクト 理事 佐藤 久彰 茨城大学社会連携センター 三浦 東
	②「子どもを見守る地域の輪」 ～子育て応援事業「親の学習」講座～	埼玉	三郷市教育委員会生涯学習部青少年課 社会教育主事 石井 麻恵
	③「未来のツクリテを育てるコサイエの取り組み」	神奈川	UDS 株式会社 代表取締役 中川 敬文
	④「ど田舎再生! 地域活性化の鍵は『家族の絆と世代・地域を超えた多様なつながり』」～横枕青年団の実践事例をもとに考える～	栃木	那須烏山市 横枕青年団 曾根駿介

テーマ	発表テーマ	都県	発表者
ボランティア関係 (会場D)	①「生涯の学びにつながる学生の社会参画活動」 ～ユニバーサルビーチでの活動報告 (大洗サンビーチでの体験から学んだこと)～	茨城	茨城大学ライフセービングクラブ 渡辺 法広 茨城大学教育学部養護教諭養成課程 内藤 恵香
	②「私たちにできるボランティア活動」 ～ 高校生から(15年間)の歩み～	栃木	ボランティア団体スノーラビット 代表 藤田 幸秀
	③「民間ボランティアが行う通学合宿」	千葉	さふさ委員会 事務局長 椎名 勤 委 員 土屋 沙織
	④「ボランタリーアクションの新しい「カタチ」」 ～豊島区みらい館大明の事例をもとに～	東京	豊島区教育委員会事務局教育部庶務課 社会教育主事 岡田麻矢 NPO 法人いけぶくろ大明 副館長 荘司 哲夫
青少年教育 (会場E)	①「感動・夢体験 in のびのび夢スクール」 ～適応指導教室との連携を通して～	茨城	茨城県中央青年の家 社会教育主事 櫻井至
	②「国立青少年教育施設の役割 ～いま、交流の家で何が起きているか～」	群馬	国立赤城青少年交流の家 所 長 杉浦 俊之 企画指導専門職 根本 純一
	③「福島の子供たちが、福島のこと、自分のこと、社会 のことを知り、改めて福島のことについて考え、自分 の力で未来を切り開く力を育む」 ～福島こどもカプロジェクト「福島こども未来塾」～	福島	国立磐梯青少年交流の家 事業推進室長 室井 修一
	④「福島復興支援事業 なすかしドリームプロジェクト IV」 ～一人はみんなのために みんなは一人のために～	福島	国立那須甲子青少年自然の家 企画指導専門職 安部 大助 企画指導専門職 吉田 淳也

第1回大会 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会実行委員会実行委員名簿

No	組織名	職名	氏 名	備考
1	茨城県生涯学習・社会教育研究会	会長 (茨城大学名誉教授)	菊池 龍三郎	委員長
2	茨城県教育委員会	生涯学習課長	廣瀬 忠	副委員長 (総務担当)
3	茨城県生涯学習・社会教育研究会	副会長	池田 馨	副委員長
4		運営委員	大月 光司	
5		会員	高瀬 利博	
6		事務局	佐藤 孝弘	
7		事務局	軍司 幹光	
8	茨城大学	社会連携センター 准教授	長谷川 幸介	副委員長
9		社会連携課長	市川 雅一	
10		社会連携センター 係長	三浦 東	
11		教育学部 教授	木村 競	
12	常磐大学	教授	坂井 知志	
13	茨城県社会教育委員連絡協議会	会長	儘田 茂樹	
14	高萩市教育委員会	教育長	小沼 公道	
15	鹿嶋市教育委員会	社会教育担当参事	大川 文一	
16	水戸教育事務所	主任社会教育主事	佐々木英治	
17	水戸生涯学習センター	企画振興課長	皆川 正巳	
18	鉾田市立野友小学校	校長	長谷川 馨	
19	滝労働管理事務所	特定社会保険労務士	滝 正利	監事
20	茨城県教育庁総務企画部生涯学習課	総括課長補佐	田口 明宏	監事
21	国立教育政策研究所 社会教育実践 研究センター	専門調査員	市川 重彦	アドバイザー

<事務局>

茨城県教育庁総務企画部生涯学習課	振興担当課長補佐	海老原 誠	事務局長
茨城県教育庁総務企画部生涯学習課	社会教育主事	鈴木 昭博	事務局
茨城県教育庁総務企画部生涯学習課	係長	廣瀬 進	事務局

第1回大会 事例発表運営スタッフ

茨城県水戸教育事務所	主任社会教育主事	佐々木 英治
茨城県水戸教育事務所	主 査	佐藤 和彦
茨城県水戸教育事務所	主 査	鈴木 洋一
茨城県県北教育事務所	主任社会教育主事	梶山 義博
茨城県鹿行教育事務所	主任社会教育主事	成島 崇之
茨城県鹿行教育事務所	主 査	大山 映子
茨城県県西教育事務所	主任社会教育主事	蛸原 高司
茨城県県西教育事務所	主 査	栃木 恵津子

笠間市教育委員会	社会教育主事	赤津 利治
常陸大宮市教育委員会	社会教育主事	山田 聡
那珂市教育委員会	社会教育主事	海老根 健治
茨城町教育委員会	社会教育主事	坂本 馨
大洗町教育委員会	社会教育主事	大森 剛
東海村教育委員会	社会教育主事	吉成 大秀
常陸太田市教育委員会	社会教育主事	吉田 薫
鹿嶋市教育委員会	社会教育主事	箕輪 直
神栖市教育委員会	社会教育主事	飯島 順
鉾田市教育委員会	社会教育主事	筒井 直子
石岡市教育委員会	社会教育主事	川上 和正
龍ヶ崎市教育委員会	社会教育主事	木村 忠夫

茨城県水戸生涯学習センター	企画振興課長	皆川 正巳
茨城県水戸生涯学習センター	社会教育主事	渡邊 和重
茨城県水戸生涯学習センター	生涯学習推進員	島 千代
茨城県水戸生涯学習センター	生涯学習推進員	馬場 美佐子
茨城県水戸生涯学習センター	生涯学習情報提供専門員	坂本 由布子

facebook ページでつながろう！



関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会のページは
QR コードからどうぞ！



関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会
第1回大会 実行委員会

事務局 茨城県教育庁総務企画部生涯学習課振興担当
〒310-8588 茨城県水戸市笠原町 978 番6
Email shogaku1@pref.ibaraki.lg.jp
TEL 029-301-5318 FAX029-301-5339